

CC-105 CDR

NATURAL SOUND AV SURROUND SYSTEM

取扱説明書

YAMAHA

ご使用前に必ずお読みください。

このたびは、ヤマハAVシステムCC-105CDRをお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。CC-105CDRの優れた性能を十分に発揮させると共に、長年支障なくご使用いただくために、この取扱説明書をご使用の前にぜひお読みくださいますようお願いいたします。また、取扱説明書はお読みになった後も大切に保管してください。

目次

ご使用になる前に

特長	2
ご使用上の注意	4
ご使用の前に	5
接続のしかた	6
①チューナーの接続	7
②CDプレーヤーの接続	7
③スピーカーの接続	7
④レコードプレーヤーの接続	8
⑤グラフィックイコライザーの接続	8
⑥アンテナの接続	8
⑦その他の機器の接続	10
●ビデオディスクプレーヤーの接続	10
●ビデオデッキの接続	11
●テレビの接続	11
⑧電源コードの接続	12
リモコンについて	13
各部の名称	14
電源のON/OFFについて	20
音量・音質の調節	20
ヘッドホンで聴くには	20
REC OUTセレクターについて	21
マイクミキシング／ミキシング録音	21
オートファンクションについて	22
サラウンド再生	22
スピーカーシステムの設置例	22

放送を聴くには

放送の受信	23
FM/AM放送の受信	23
テレビ放送の受信	23
プリセットメモリーの使いかた	24
プリセットのしかた	24
プリセット選局	24
ラストチャンネルメモリー機能	24

CDを聴くには

CD(コンパクトディスク)の取り扱いかた	25
演奏と基本操作	25
ディスプレイ表示について	27
インデックスサーチ	28
ダイレクト選曲	28
スキップ選曲	28
プログラム演奏	28・29
リピート演奏	30
タイマープレー機能	30

録音・再生を始める前に

録音・再生を始める前に	31
カセットテープの装着	31
カセットテープについて	31
リバースモードについて	31
ピッチコントロール機能	31

テープを聴くには

テープ再生の準備	32
テープ再生	32
曲の頭出し	33
リレー再生	33・34

特長

アンプ部

オートファンクション

CDプレーヤー、レコードプレーヤー、チューナー、カセットデッキがワンタッチで楽しめるオートファンクション機能を装備。

マイクミキシング

ソースに合わせて歌えるマイクミキシング機能搭載。カセットテープでカラオケするときには、ピッチコントロール機能も使えますので、音程も自由にコントロールできます。

迫力と臨場感のサラウンド再生

リアスピーカー(別売)を2台追加すると、ステレオソースが広がりのあるサラウンドを効かせてお楽しみいただけます。

REC OUTセレクター

録音しながら他のソースを聴くことができます。

SUPER BASS再生

超低音域を強調して迫力のある音をお楽しみいただけます。

チューナー部

AM/FM/TV放送受信

AM/FM/TV(テレビの音声のみ)放送の受信ができます。テレビ放送受信では、ステレオ放送や音声多重(2ヶ国語)放送もお楽しみいただけます。

TV12局+FM/AM12局プリセット

微弱電波も的確にとらえるマニュアルチューニングに加えて、TV局12局、AM/FM局を合わせて12局、合計24局をプリセットできます。ご希望の放送局をワンタッチで受信できます。

1日3プログラム+スリープタイマー

高精度デジタルタイマーを内蔵しており、毎日定刻にON/OFFするEVERYタイマーの他に、1日2回までご希望の時間にON/OFFするプログラムタイマーとOFF時刻だけを設定するスリープタイマーが装備されています。

録音するには

録音の準備	34・35
録音(ダイレクト録音・手動録音)	35・36
TVまたはFM/AM放送の録音	36
CDの録音	37
CDの編集録音	37・38
レコードの録音	39
その他の機器の録音	39
外部機器による録音	39
録音に便利な機能	40
テープダビング	40

その他の機器を使うには

その他の機器の操作	41
-----------	----

リモコンを使うには

リモコンの操作	41
---------	----

タイマー

時刻の合わせかた	42
タイマーシステムの使いかた	43
目覚し再生(チューナー・カセットデッキ・CDプレーヤー)	43~45
留守録音(チューナー→カセットデッキ)	46・47
スリープタイマー	47
タイマーセット上の注意	48

ご参考に

カセットデッキのお手入れ	49
ドルビーNRについて	49
オートテープセレクターについて	50
著作権について	50
故障かなと思ったら	51・52
参考仕様	53・54
ヤマハホットラインサービスネットワーク	55

カセットデッキ部

録再オートリバース

テープの両面に、連続して倍速ダビング(複写録音)をすることができます。

リレー再生

テープを2本セットすれば、リバースでリレー再生することができます。

ピッチコントロール機能

DECK Aの再生スピードを変えることができます。カラオケするとき音程を合わせるのに便利な機能です。

ワンタッチ録音

キーを押すだけで、入力切換→ソース再生→録音スタートを最適なタイミングで行なうダイレクト録音ができます。マイコン制御により録音時のわずらわしい操作から開放されました。

2モードCDダビング

CDをテープに録音するとき、次の2通りの便利な機能を使うことができます。

- お好みの曲だけプログラムして録音。
- テープの長さに合わせて自動選曲するテーププログラム録音。

CDプレーヤー部

テーププログラムエディット

録音時、テープの長さに合わせて自動選曲を行なうテーププログラムエディット機能搭載。オリジナルテープ作りに活用できます。

多彩な機能

プログラム演奏、リピート演奏をはじめ、CDに収められている情報を最大限に生かした多彩な演奏を、簡単操作でお楽しみいただけます。

スピーカー

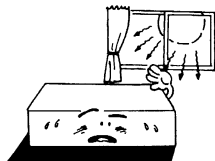
本格的防磁スピーカー

テレビの近くに置いても画像が乱れにくい防磁スピーカーを採用。

ご使用上の注意

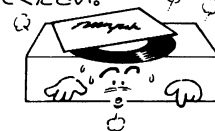
高温・低温はさけて！

窓際や直射日光の当たる場所・暖房器具のそばなど極端に暑い場所(周囲温度40℃以上)・温度の特に低い場所(周囲温度-5℃以下)・湿度の多い場所(湿度90%以上)は、さけてください。

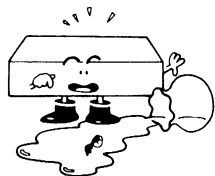


セット上面の通風孔をふさがない

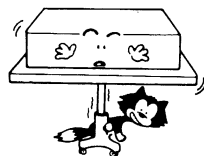
放熱を妨げないため、セット上面の通風孔の上に敷き物や、レコードなどを絶対に置かないでください。



ほこり・水気をさけて！

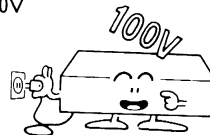


不安定な場所をさけて！

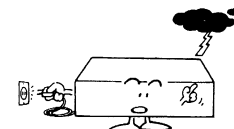


国内のみ使用可

家庭用電源コンセント
AC100V

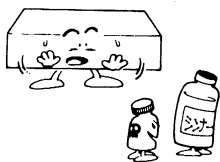


雷が近づいたら

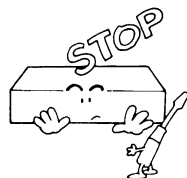


早めに電源プラグをコンセントから抜いてください。

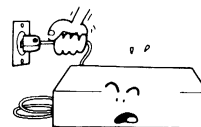
薬物厳禁



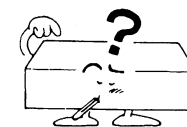
開けないで！



引っばらないで！



こわれた？



51ページの「故障かなと思ったら」をご覧ください。

保証書の手続きを！

お買い求めいただきました際、購入店で必ず保証書の手続きを行なってください。保証書に販売店名、購入日などがありませんと、保証期間中でも万一サービスの必要がある場合に実費をいただくことがありますので、充分ご注意ください。



取扱説明書はかならず保管してください。

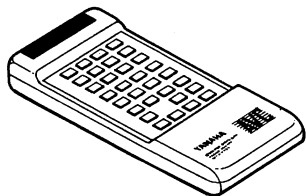


ファイルなど

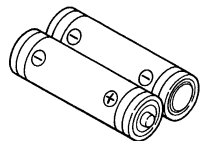
ご使用前に

付属品を確認してください

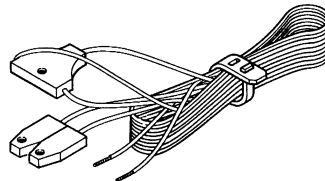
- リモコン(RS-AV10) 1個



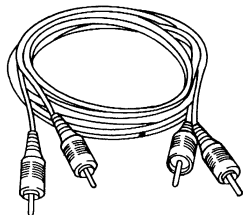
- 単3乾電池(SUM-3) 2本



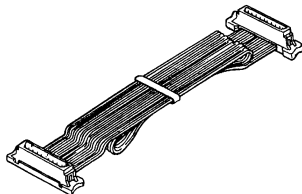
- FM/TV T字型簡易アンテナ(1個)



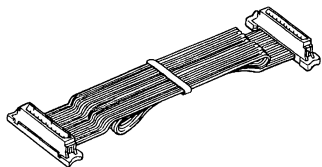
- ピンコード(1本)



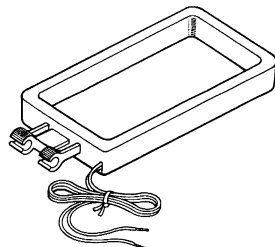
- CDコネクタ(10ピンのもの)



- チューナーコネクタ(13ピンのもの)



- AMループアンテナ(1個)



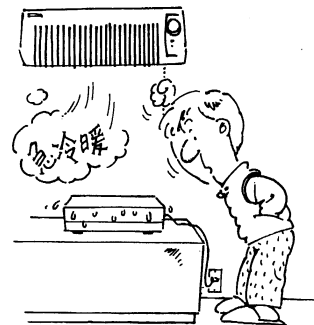
設置場所について

本機を設置する際は、振動のない水平な場所を選んでください。またラックなどに入れる場合は風通しを良くし、放熱効果を妨げないようにしてください。

結露現象について

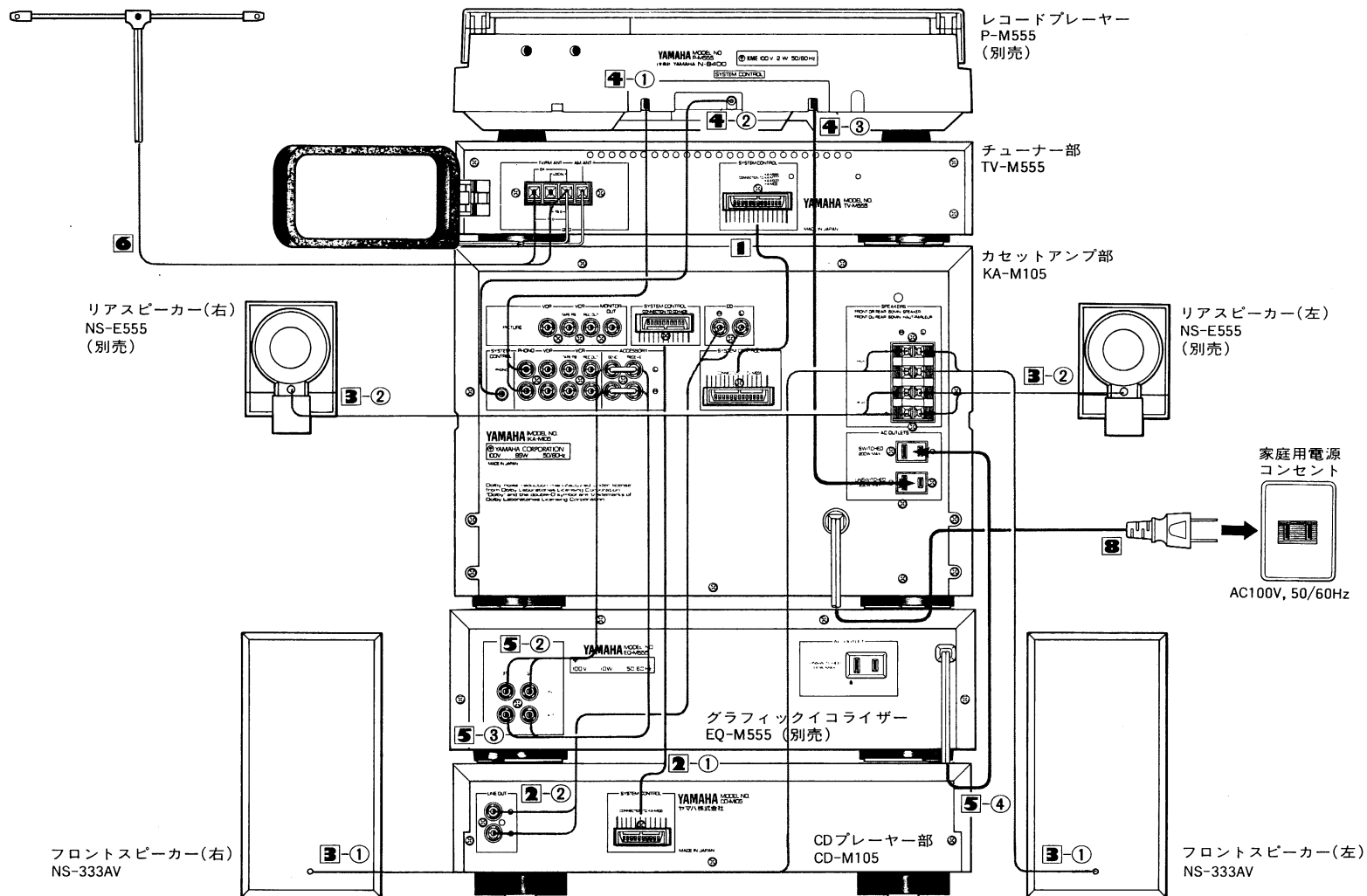
冬期に本機を戶外から暖房中の室内に持ち込んだり、本機を設置した部屋の温度を暖房などで急に上げたりしますと、CDプレーヤーの動作部やピックアップレンズに露がつくことがあります。露がついたままでは正常の動作ができませんので、そのようなときは、本機を室温に保ち、電源を入れたまま1～2時間放置し、露が消えてから操作してください。

結露と同じ症状は夏期のクーラーやエアコンの風が直接当たるところでも起きることがあります。その場合は本機の設置場所を変えるか、風向きを変えて冷たい風が直接当たらないようにしてください。



接続のしかた

番号順に接続してください。説明文中には別売機器の接続方法も同時に記載されています。

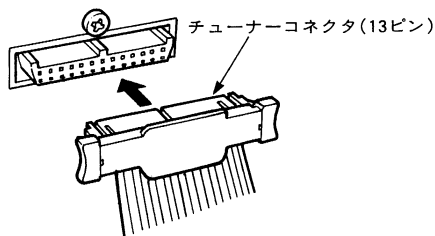


接続時の注意

- 1 本システムは、カセットアンプ部、チューナー部、CDプレーヤー部、それぞれ単体では動作しません。必ず付属のチューナーコネクタ(13ピン)とCDコネクタ(10ピン)で接続してください。
- 2 すべての機器の電源を切って接続してください。
- 3 出力コードは左チャンネル(L)、右チャンネル(R)を確認して正しく接続してください。
- 4 電源コードはすべての接続が終わってから接続してください。

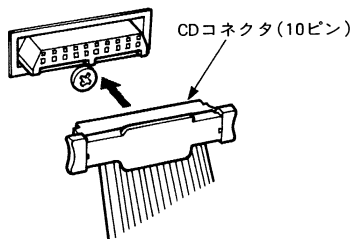
1 チューナー部の接続

付属のチューナーコネクタでカセットアンプ部のSYSTEM CONTROL端子“CONNECTION TO TV-M555”とチューナー部のSYSTEM CONTROL端子を接続します。チューナーコネクタの向きを間違えないように接続してください。



2 CDプレーヤー部の接続

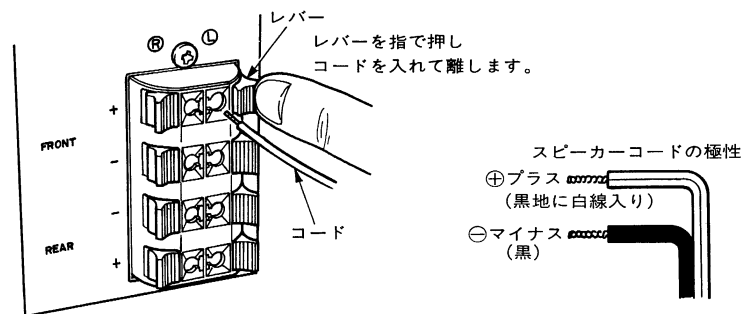
① 付属のCDコネクタでカセットアンプ部のSYSTEM CONTROL端子“CONNECTION TO CD-M105”とCDプレーヤーのSYSTEM CONTROL端子を接続します。CDコネクタの向きを間違えないように接続してください。



② 付属のピンコードでカセットアンプ部のCD端子とCDプレーヤー部のLINE OUT端子を接続します。

3 スピーカーの接続

- ① スピーカーをカセットアンプ部のSPEAKERS端子(FRONT)に接続します。SPEAKERS端子のⓇ側に右側のスピーカーを、①側に左側のスピーカーを極性(⊕、⊖)を合わせて接続します。
- ② リアスピーカー(別売)をご使用になる場合は、カセットアンプ部のSPEAKERS端子(REAR)に接続します。本システムのリアスピーカーとしては、NS-E555(別売)が用意されています。

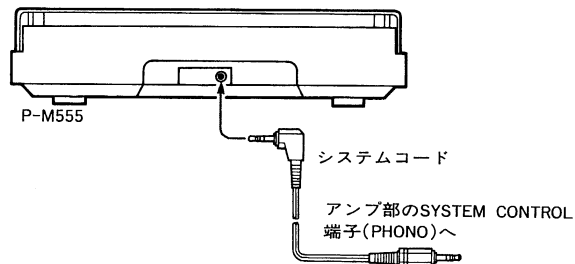


ご注意

- スピーカーコードをショートさせたり、インピーダンスの低いスピーカーをつながないでください。故障の原因になります。
- 極性が合っていない場合、音が中央に定位せずステレオ感のない低音のそこなわれた不自然な再生音となってしまいますのでご注意ください。

4 別売レコードプレーヤー(P-M555)の接続

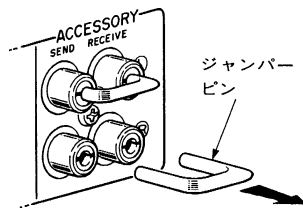
- ①レコードプレーヤー(別売)の出力コードをカセットアンプ部の PHONO 端子に接続します。
- ②別売プレーヤー(P-M555)に付属のシステムコードでプレーヤーのSYSTEM CONTROL端子とカセットアンプ部のSYSTEM CONTROL端子(PHONO)に接続します。



- ③レコードプレーヤーの電源プラグをカセットアンプ部のAC OUTLETS (UNSWITCHED)に接続します。

5 別売グラフィックイコライザー(EQ-M555)の接続

- ①カセットアンプ部のACCESSORY端子に差し込まれているジャンパーピンを2本とも抜きます。
ジャンパーピンは大切に保管してください。



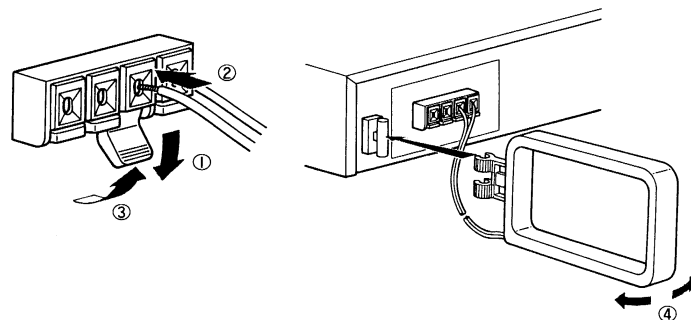
- ②グラフィックイコライザーに付属のピンコードでカセットアンプ部のACCESSORY SEND端子とグラフィックイコライザーのIN端子を接続します。
- ③グラフィックイコライザーに付属のピンコードでカセットアンプ部のACCESSORY RECEIVE端子とグラフィックイコライザーのOUT端子を接続します。
- ④グラフィックイコライザーの電源プラグをカセットアンプ部のAC OUTLETS (SWITCHED)に接続します。

6 アンテナの接続

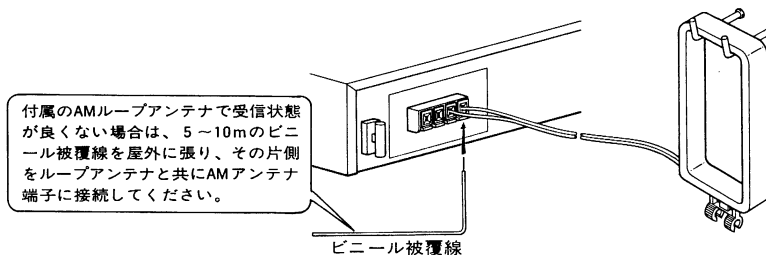
AMループアンテナの接続

付属のAMループアンテナをチューナー部のAM ANT端子に接続します。

- ①つまみを下に倒します。
- ②AMループアンテナのコードをAM ANT端子に差し込みます。
- ③つまみをロックするまで引き上げます。
- ④希望のAM放送局を選局して、図のようにアンテナを左右に回し、受信状態が最も良くなる方向を探してください。



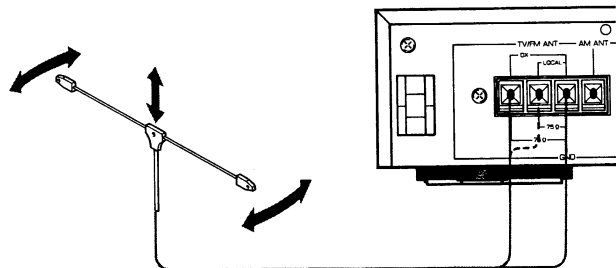
AMループアンテナは、ホルダーから外して受信状態を調整することもできます。もし、ループアンテナで良い受信状態が得られない場合は、AMアンテナ端子に5m~10mのビニール被覆線を接続し、窓際か屋外に張ってください。(このときAMループアンテナも必ず取り付けおいてください。)



FM/TV T字型簡易アンテナの接続

付属のT字型簡易アンテナは、電波状況が非常に良い地域で受信する場合にご使用ください。

通常は図のようにアンテナのフィーダー線の片方をTV/FM ANT端子の“DX”端子に接続し、他方を“GND”端子に接続します。次に、水平部を伸ばしゆっくり180度回しながら、最も受信状態の良くなる方向を選んで壁などに固定します。



通常は“DX”端子に接続します。放送局が近くであり、電波が強い所では、音声がはずんだり、とぎれたり、雑音が入ることがあります。そのときは“LOCAL”の端子に接続します。

FM/TV専用屋外アンテナの接続

TV音声、FM放送を良質に受信するためには、FM/TV用の屋外アンテナをそれぞれ使用されることをお勧めします。

また、FM電波は受信する地域の状況（放送局からの距離、ビルや山のかげなど）によっては良好な受信ができにくい場合がありますので、ご使用になる地域の状況に合ったアンテナを設置してください。

アンテナを設置する際は、雑音の発生源のひとつであるオートバイや自動車のイグニッションノイズの影響を受けないように、道路から離れたなるべく高いところに設置してください。



FM/TVアンテナを雑音の発生源（オートバイや自動車）からなるべく離れて高く建てる。

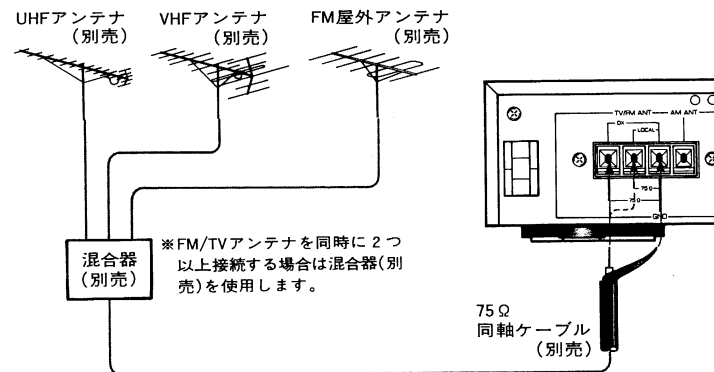
電波状況が非常に良い地域では、TVのVHFアンテナを本機のFM/TV用アンテナに使用することもできます。

アンテナをTVと本機に共用する場合は、分配器（別売）をご使用ください。

詳細は分配器の取扱説明書をご覧ください。

アンテナの接続には75Ω同軸ケーブルを使用してください。

本機は遠距離受信用の“DX”と近距離受信用の“LOCAL”の2種類のTV/FMアンテナ接続方法があります。



※FM/TVアンテナを同時に2つ以上接続する場合は混合器（別売）を使用します。

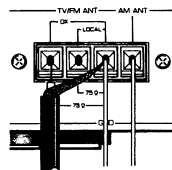
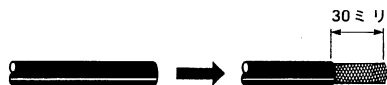
通常は“DX”の端子に接続します。放送局が近くであり、電波が強い所では、音声がはずんだり、とぎれたり、雑音が入ることがあります。そのときは“LOCAL”の端子に接続します。

アンテナ設置上の注意

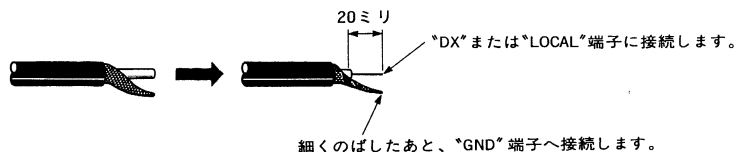
近くに放送局があるような強電界地域では、多素子のアンテナやブースター（増幅器）を使うと、電波が強すぎて、かえって良好な受信ができなくなることがあります。

同軸ケーブルについて

①被覆をむきます。



②網線を束ね芯線を出します。

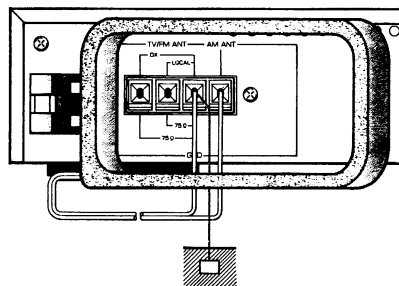


アースについて

アースをとらなくても通常の受信はできますが、雑音防止と安全のために地中アースをとることをお勧めします。
アースはアース棒(別売)か鋼板にビニール被覆線を接続して湿気の多い地中に埋めてください。

ご注意

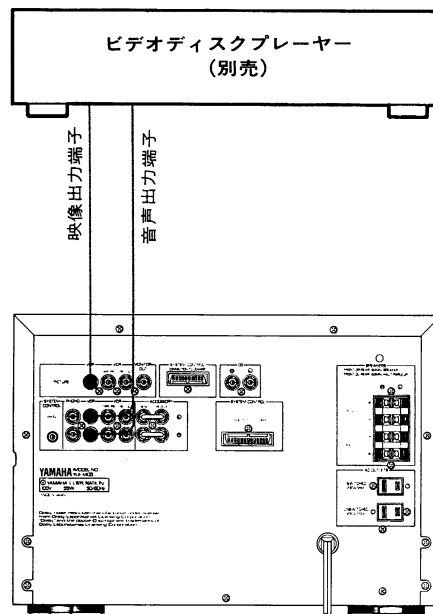
感電や火災などの危険防止のため、水道管やガス管にアースを取り付けることは絶対におやめください。



その他の機器の接続

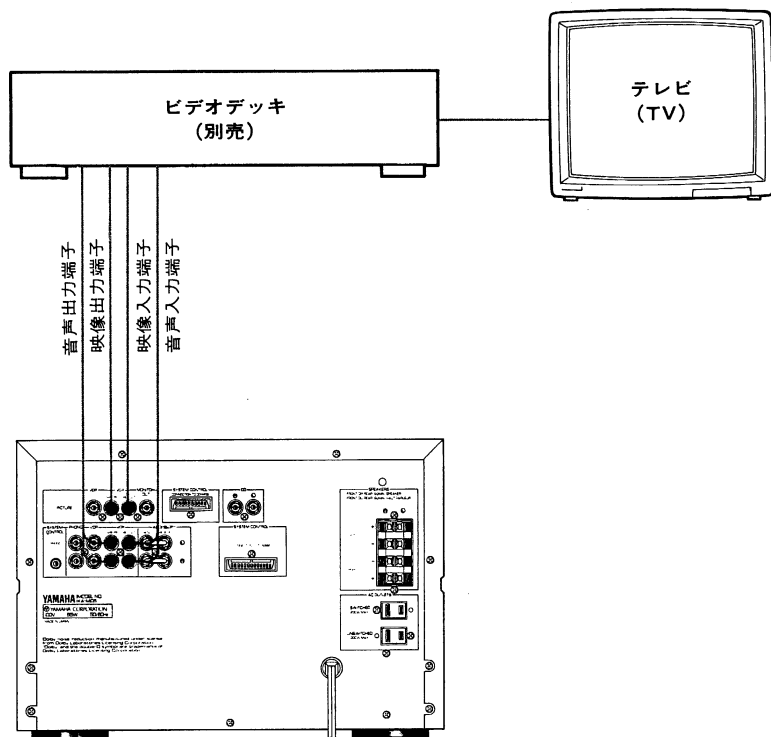
ビデオディスクプレーヤーの接続

- ①カセットアンプ部のVDP音声入力端子とビデオディスクプレーヤー(別売)の音声出力(AUDIO OUT)端子をステレオピンコード(別売)で接続します。
- ②カセットアンプ部のPICTURE端子のVDPとビデオディスクプレーヤー(別売)の映像出力(VIDEO OUT)端子をモノラルピンコード(別売)で接続します。



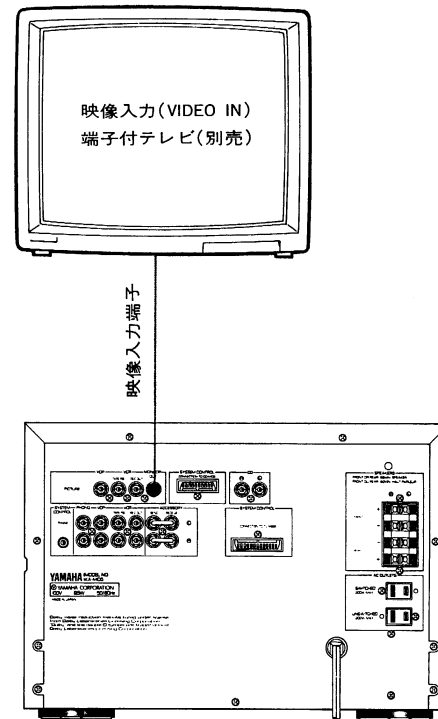
ビデオデッキの接続

- ①カセットアンプ部のVCR TAPE PB端子とビデオデッキ (別売) の音声出力 (AUDIO OUT) 端子をステレオピンコード (別売) で接続します。
- ②カセットアンプ部のVCR REC OUT 端子とビデオデッキ (別売) の音声入力 (AUDIO IN) 端子をステレオピンコード (別売) で接続します。
- ③カセットアンプ部のPICTURE端子のVCR TAPE PB とビデオデッキ (別売) の映像出力 (VIDEO OUT) 端子をモノラルピンコード (別売) で接続します。
- ④PICTURE端子のVCR REC OUTとビデオデッキ (別売) の映像入力 (VIDEO IN) 端子をモノラルコード (別売) で接続します。



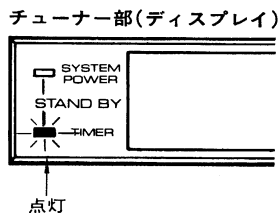
テレビの接続

本機は映像入力 (VIDEO IN) 端子付テレビ (別売) と接続することができます。カセットアンプ部のMONITOR OUT端子とテレビの映像入力 (VIDEO IN) 端子をモノラルピンコード (別売) で接続します。

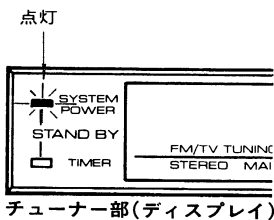


⑧ 電源コードの接続

カセットアンプ部の電源プラグを家庭用電源コンセントに接続します。
電源プラグを接続すると、TIMER STAND BY インジケーターが緑色に点灯します。(タイマースタンバイ状態。)



次にチューナーのTIMERキーを押して、システムの電源を入れてください。(システムパワースタンドバイ状態。)
SYSTEM POWER STAND BYインジケーターが赤色に点灯します。



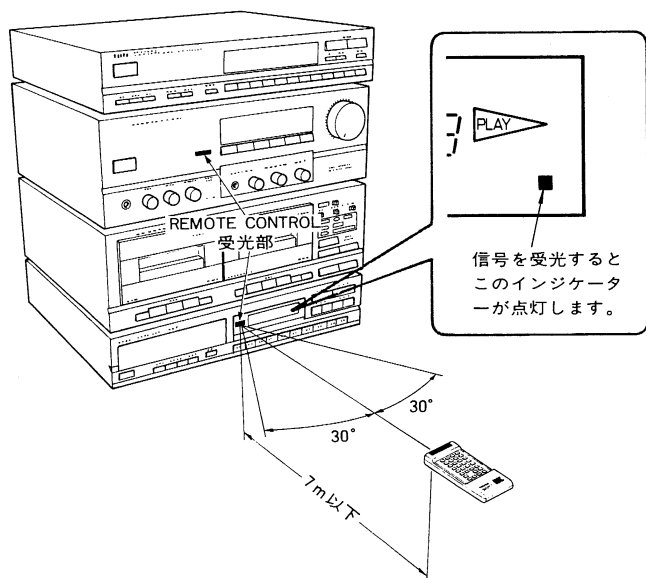
それからチューナー部に装備されている時計を合わせてください。
(42ページ参照。)

※最初にカセットアンプ部の電源を入れた時には、カセットのメカニズムが必ず1回、初期化する動作(ヘッドの上下運動)を行ないます。
カセットアンプ部の電源コンセントを一度外してから再度接続し、電源をONにした場合もこの初期化動作を1回行ないますが、これらの動作は故障ではありません。

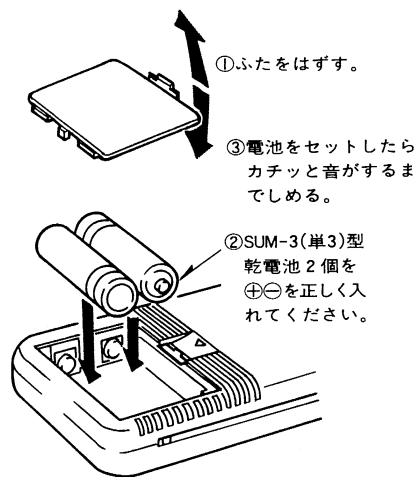
リモコンについて

付属のリモコン (RS-AV10) を使うと基本操作のほとんどを離れた場所から行なうことができます。

リモコンは、直進性に優れた赤外線を使っています。REMOTE CONTROL 受光部 (アンプ部と CD プレーヤー部の 2 ヶ所) に向けて、正しく操作してください。受光部を覆ったり、リモコンと受光部の間に障害物がありますと動作しません。また受光部に強い光が当たると、誤動作することがありますのでご注意ください。



電池の入れかた



電池の交換時期

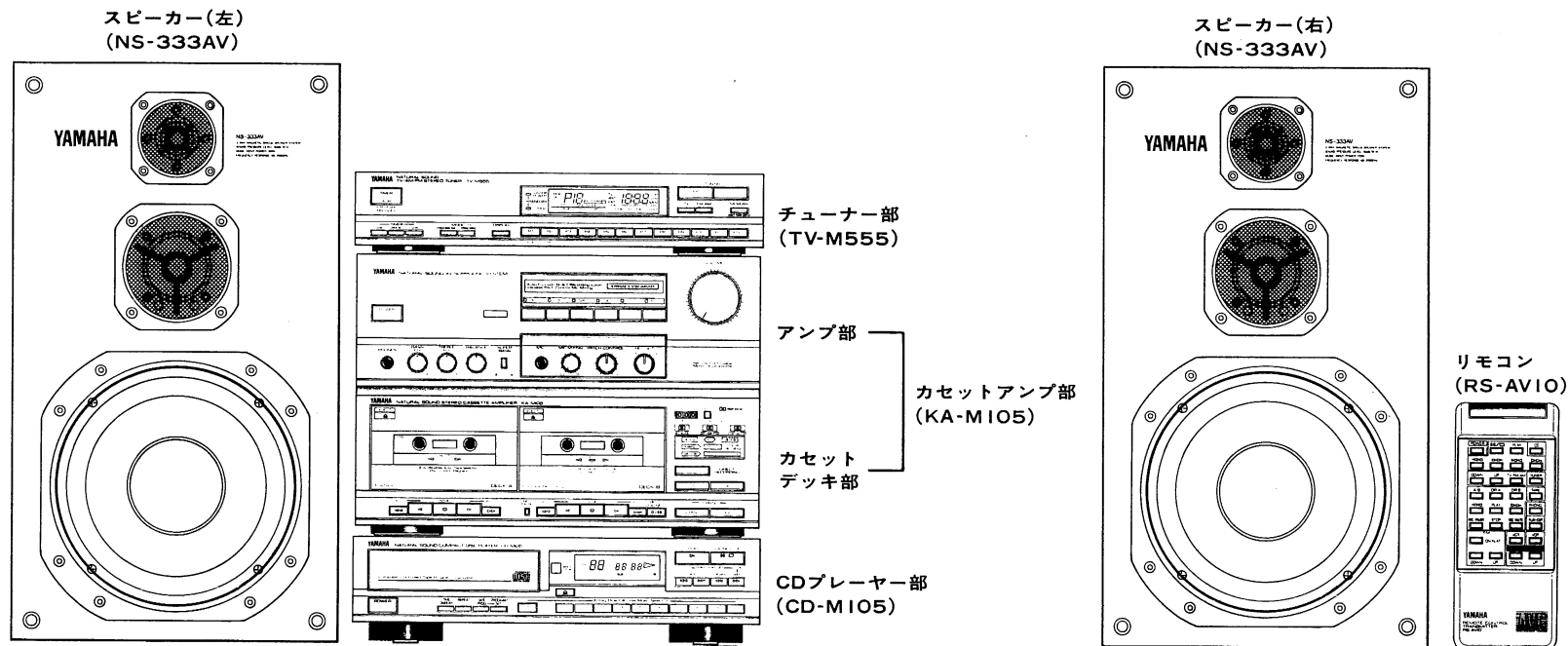
操作できる距離が短くなってきたら、電池が消耗しています。早めに、2本とも新しい電池と交換してください。

ご注意

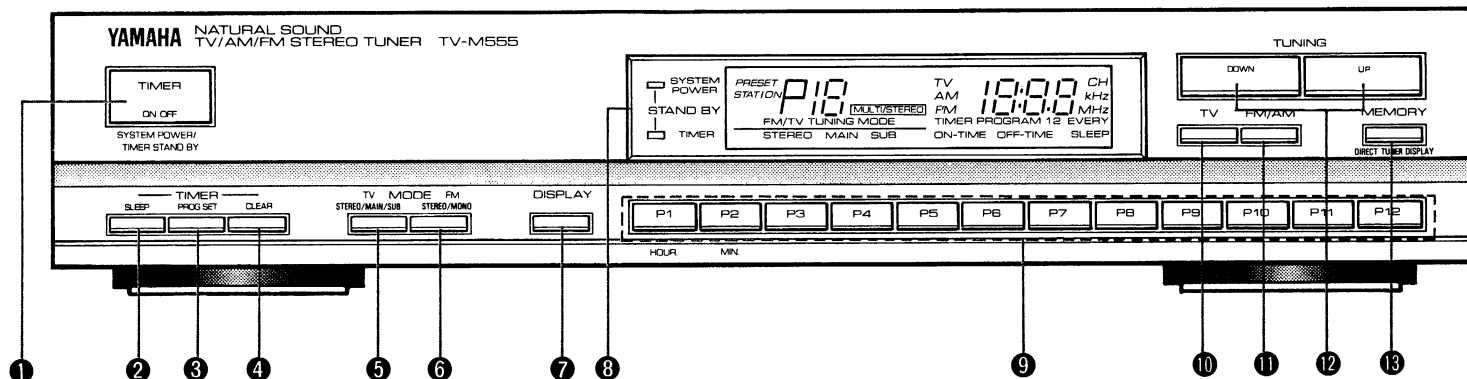
- プラス (⊕) とマイナス (⊖) の向きを、リモコンの電池ケースの表示通りに入れてください。
- 新しい電池と一度使用した電池を、混ぜて使用しないでください。
- 種類の違う電池を混ぜて使用しないでください。同じ形状でも、性能の異なるものがあります。
- 電池には、充電式とそうでないものがあります。電池の注意表示をよく見てください。
- 長い間リモコンを使わないときは、電池を取り出しておいてください。
- 分解や加熱をしたり、火の中に入れてしないでください。万一液漏れが起こったときは、電池ケースや電極についた液をよくふき取ってから、新しい電池を入れてください。

各部の名称

本機はカセットアンプ部(アンプ部とカセットデッキ部一体型)・チューナー部・CDプレーヤー部・スピーカーによって構成されています。



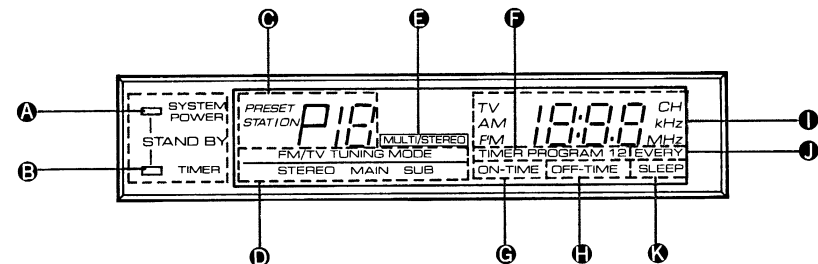
チューナー部



- ① **TIMERキー**
TIMER STAND BYのON/OFF
- ② **TIMER SLEEPキー**
タイマー スリープ
- ③ **TIMER PROG SETキー**
タイマー プログラム セット
- ④ **TIMER CLEARキー**
タイマー クリア
- ⑤ **TV MODEキー**
テレビ モード
- ⑥ **FM MODEキー**
エフエム モード

- ⑦ **ディスプレイ**
表示の切り替え
- ⑧ **ディスプレイ**
- ⑨ **プリセットナンバーキー**
- ⑩ **TVキー**
テレビ
- ⑪ **FM / AMキー**
エフエム エイエム
- ⑫ **TUNINGキー**
チューニング
- ⑬ **MEMORYキー**
メモリー

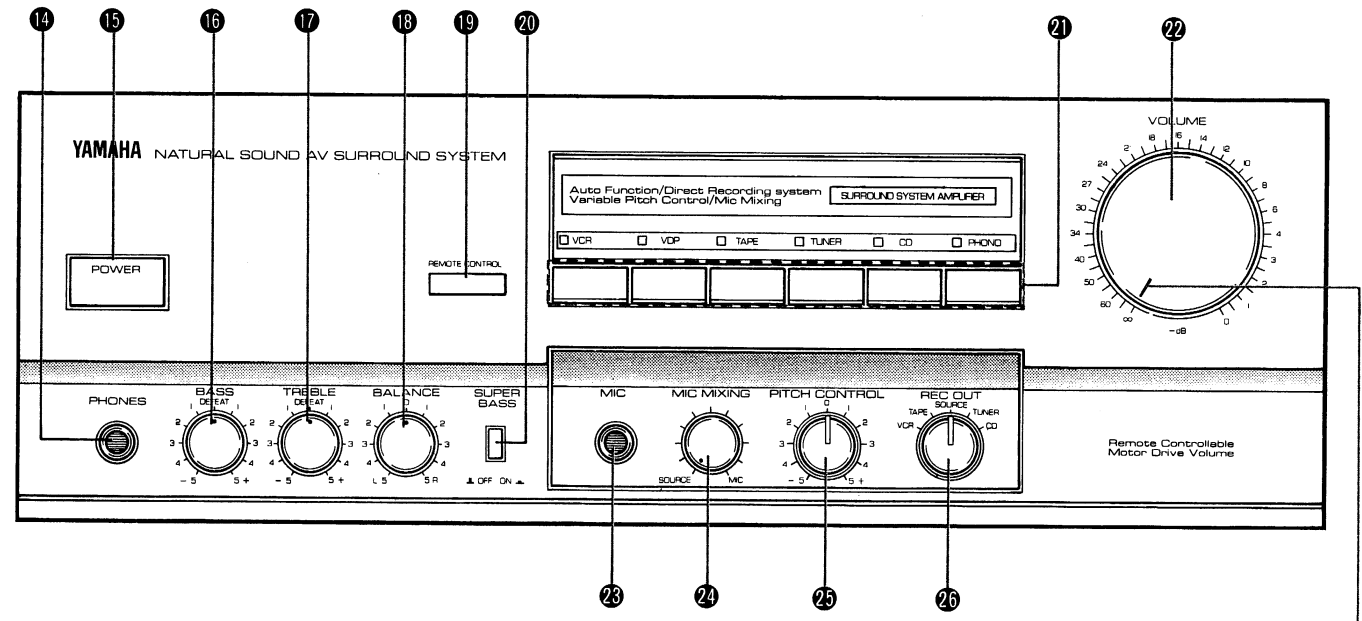
⑧ディスプレイ



- ⑨ **SYSTEM POWER STAND BY**
システム パワー スタンバイ
- ⑩ **PRESET STATIONインジケータ**
インジケータ
- ⑪ **TIMER STAND BYインジケータ**
タイマー スタンバイ
- ⑫ **PRESET STATIONインジケータ**
プリセット ステーション
- ⑬ **FM / TV TUNING MODEインジ**
エフエム テレビ チューニング モード
- ⑭ **FM / TV TUNING MODEインジ**
ケータ : STEREO MAIN SUB
- ⑮ **MULTI / STEREOインジケータ**
マルチ ステレオ

- ⑯ **TIMER PROGRAMインジケータ**
タイマー プログラム
- ⑰ **ON-TIMEインジケータ**
オン タイム
- ⑱ **OFF-TIMEインジケータ**
オフ タイム
- ⑲ **チャンネル / 周波数 / タイマーインジ**
ケータ
- ⑳ **EVERYインジケータ**
エブリイ
- ㉑ **SLEEPインジケータ**
スリープ

アンプ部



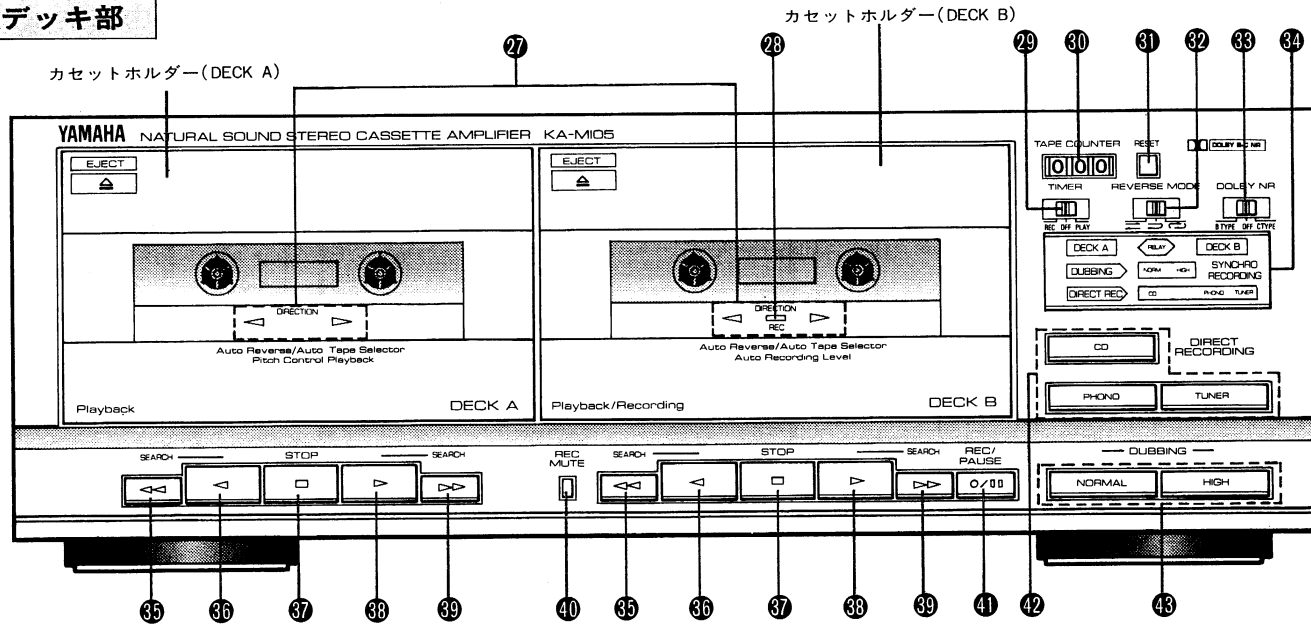
VOLUMEインジケーター

- ⑭ PHONESジャック
ホーンズ
- ⑮ POWERキー………
パワー
システムの電源ON/OFF
- ⑯ BASSツマミ
バス
- ⑰ TREBLEツマミ
トレブル

- ⑱ BALANCEツマミ
バランス
- ⑲ REMOTE CONTROL 受光部
リモート コントロール
- ⑳ SUPER BASSスイッチ
スーパーバス
- ㉑ インプットセレクター
(VCRキー、VDPキー、TAPEキー、
TUNERキー、CDキー、PHONOキー)

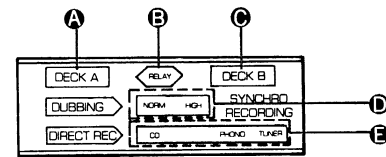
- ㉒ VOLUMEツマミ
ボリューム
- ㉓ MICジャック
マイク
- ㉔ MIC MIXINGツマミ
マイク ミキシング
- ㉕ PITCH CONTROLツマミ
ピッチ コントロール
- ㉖ REC OUTセレクター
レックアウト

カセットデッキ部



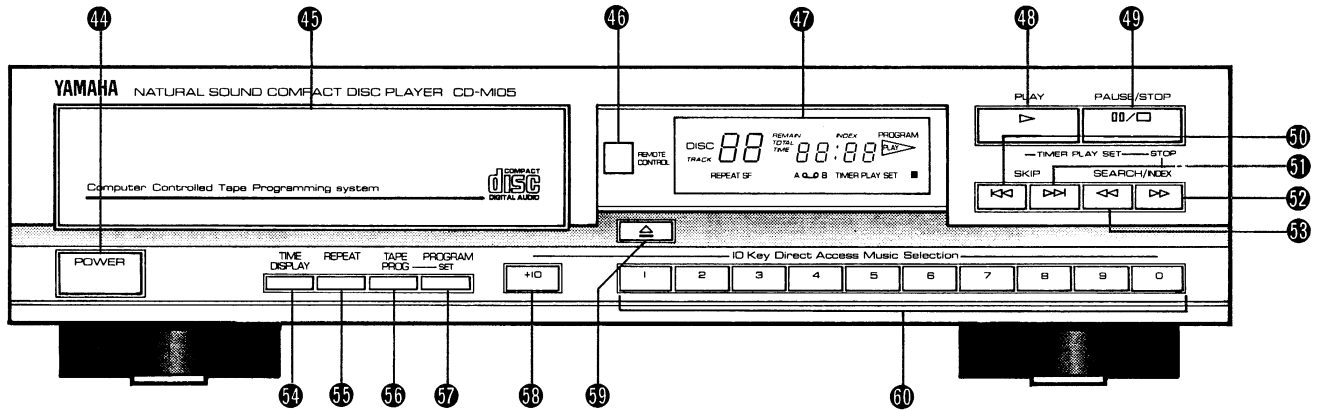
- ②7 ディレクション DIRECTIONインジケータ……………
- ②8 テープ走行方向表示 RECインジケータ
- ②9 タイマー TIMERスイッチ
- ③0 テープ カウンター TAPE COUNTER
- ③1 リセット RESETキー
- ③2 リバース モード REVERSE MODEセクター
- ③3 ドルビー ノイズリダクション DOLBY NR スイッチ
- ③4 ディスプレイ ディスプレイ
- ③5 再生キー (◀キー) 再生キー (◀キー)
- ③6 ストップ STOPキー
- ③7 再生キー (▶キー) 再生キー (▶キー)
- ③8 レック ミュート >> キー
- ③9 レック ポーズ REC MUTEキー
- ④0 ダイレクト レコーディング DIRECT RECORDINGキー
- ④1 レック ダビング DUBBINGキー

③4 ディスプレイ



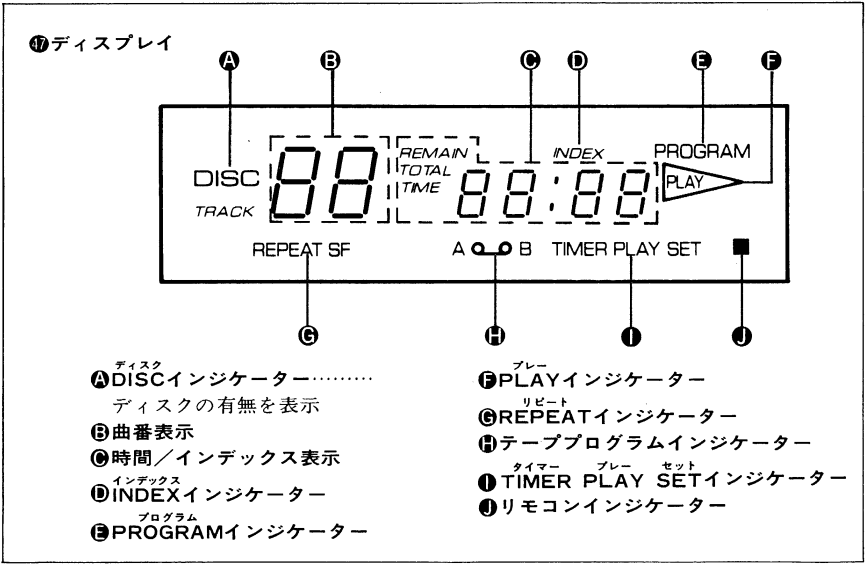
- ④2 デッキ DECK A インジケータ
- ④3 リレー RELAYインジケータ
- ④4 デッキ DECK B インジケータ
- ④5 ノーマル ハイ ダビングインジケータ : NORM, HIGH
- ④6 シーディー フォノ チューナー ダイレクトレックインジケータ : CD, PHONO, TUNER

CDプレーヤー部



- ④ POWERキー
- ⑤ ディスクトレイ
- ⑥ リモート コントロール
REMOTE CONTROL 受光部
- ⑦ ディスプレイ
- ⑧ プレー
PLAYキー
- ⑨ ポーズ ストップ
PAUSE/STOPキー
- ⑩ スキップ
SKIPキー
- ⑪ スキップ
SKIPキー
- ⑫ サーチ インデックス
SEARCH/INDEXキー

- ⑬ サーチ インデックス
SEARCH/INDEXキー
- ⑭ タイム ディスプレイ
TIME DISPLAYキー
- ⑮ リピート
REPEATキー
- ⑯ テープ プログラム
TAPE PROGキー
- ⑰ プログラム
PROGRAMキー
- ⑱ +10キー
- ⑲ △キー (OPEN/CLOSE)
- ⑳ 数字キー

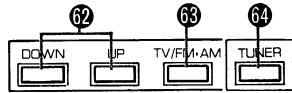


リモコン

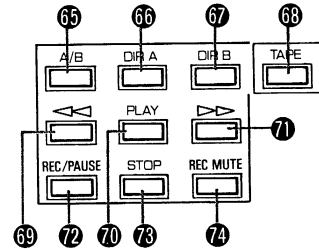
システム電源



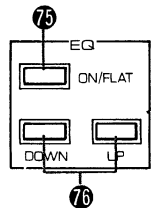
チューナー操作部



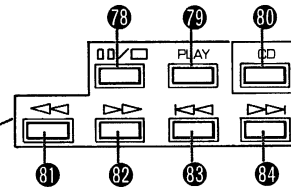
カセットデッキ操作部



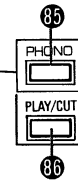
グラフィックイコライザー操作部



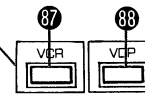
CDプレーヤー操作部



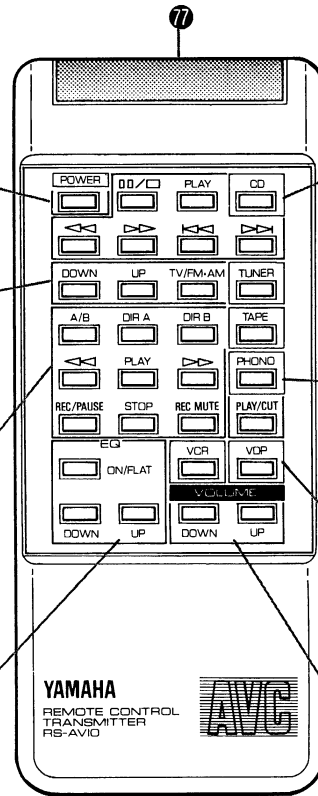
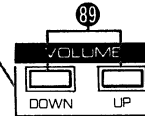
レコードプレーヤー操作部



ビデオ操作部



音量調節



システム電源

パワー
① POWERキー

チューナー操作部

プリセット
② PRESETキー
アップ ダウン
(UP, DOWN)

テレビ エフエム・エイエム
③ TV/FM・AM キー
チューナー
④ TUNERキー

カセットデッキ操作部

デッキ
⑤ DECK A/Bキー
ディレクション デッキ
⑥ DIRECTION DECK A
ディレクション デッキ
⑦ DIRECTION DECK B
テープ
⑧ TAPEキー

⑨ << キー
⑩ >> キー
⑪ >> キー

レック ボーズ
⑫ REC/PAUSEキー
ストップ
⑬ STOPキー
レック ミュート
⑭ REC MUTEキー

グラフィック

イコライザー操作部

イコライザー オン フラット
⑮ EQ ON/FLATキー
イコライザー プリセット
⑯ EQ PRESETキー
アップ ダウン
(UP, DOWN)

⑰ リモコン送信部

CDプレーヤー操作部

ポーズ ストップ
⑮ PAUSE/STOPキー

プレー
⑯ PLAYキー
シーディー
⑳ CD キー

サーチ
㉑ << キー (SEARCH)
サーチ
㉒ >> キー (SEARCH)
スキップ
㉓ << キー (SKIP)
スキップ
㉔ >> キー (SKIP)

レコードプレーヤー操作部

フォノ
㉕ PHONOキー
プレー カット
㉖ PLAY/CUTキー

ビデオ操作部

バイシアーナル
㉗ VCR キー
バイディービー
㉘ VCP キー

音量調節

ボリューム
㉙ VOLUMEキー
アップ ダウン
(UP, DOWN)

電源のON/OFFについて

本システムの主電源のON/OFFはアンプ部のPOWERキーで行ないます。また、プログラムタイマーを動作させるときは、チューナー部のTIMERキーで電源を切ってください。

■システムの電源

システムの主電源はアンプ部またはリモコンのPOWERキーを押してON/OFFします。タイマーを使用しないときはこのキーで電源を切ってください。そのときSYSTEM POWER STAND BYインジケータが赤く点灯します。

■タイマーの電源

プログラムタイマーを使うときはチューナー部のTIMERキーで電源を切ります。そのときTIMER STAND BYインジケータが緑色に点灯します。
※アンプ部のPOWERキーで電源を切ってもプログラムタイマーは働きません。

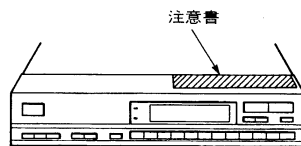
■CDプレーヤー部の電源

CDプレーヤー部のPOWERキーは押すたびにCDプレーヤーの電源をON/OFFできます。

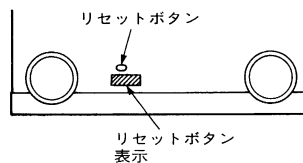
ご注意

電源プラグを差し込んだ時、TIMERキーを押してもSYSTEM POWER STAND BYインジケータが点灯しないか、または、チューナー部(TV-M555)のディスプレイが誤表示をする場合は、フロントパネル上部に貼付されている注意書をお読みになり、底板についているリセットボタンを操作してください。

〈フロントパネル〉



〈底板〉



音量・音質の調節

■音量の調節

音量はアンプ部のVOLUMEツマミで調節します。

- ①最初にアンプ部のMIC MIXINGツマミを左一杯(SOURCE側)に回します。
- ②VOLUMEツマミで音量を調節します。VOLUMEツマミは右に回すと音量が大きくなり、左に回すと小さくなります。
VOLUMEインジケータは通常緑色に点灯していますが、リモコンで音量調節を行なっている間は赤色に変わります。

■音質の調節

音質はアンプ部のBASツマミ、TREBLEツマミ、SUPER BASSスイッチによって調節できます。

- BASSツマミ：低音域を調節するツマミで、DEFEATポジションでフラットになり、右に回すほど低音が強調され、左に回すと減衰されます。
- TREBLEツマミ：高音域を調節するツマミで、DEFEATポジションでフラットになり、右に回すほど高音が強調され、左に回すと減衰されます。
- SUPER BASSスイッチ：低音域(特に80Hz付近)が強調されます。

■バランスの調節

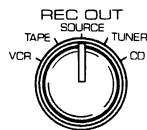
アンプ部のBALANCEツマミでフロントスピーカーの左右の音量バランスを調節できます。右(R側)に回すほど左の音が小さくなり、左(L側)に回すほど右の音が小さくなります。なお、リアスピーカーのバランス調節はできません。

ヘッドホンで聴くには

アンプ部のPHONESジャックにヘッドホン(別売)を接続すると、スピーカーから音を出さずにお楽しみいただけます。ヘッドホンの音量はアンプ部のVOLUMEツマミで調節します。

REC OUTセレクトターについて

REC OUTセレクトターはDECK Bで録音するソースとVCR REC OUT端子から送り出されるソースを選択するセレクトターです。



REC OUTセレクトター位置	録音するソース	録音する側
VCR	VCR	DECK B
TAPE	DECK A 又は、B	VCR
SOURCE (イコライザー録音する時に使用。)	インプットセレクトターで選択されたソース	DECK B, VCR (インプットセレクトターで選択されたソースを録音します。ACCESSORY端子にEQ-M555(別売)などを接続した場合、アクセサリ機器で調節された音が録音可能です。(スピーカーで聞く音と同じ音が録音できます。))
TUNER	TUNER	DECK B, VCR
CD	CD	DECK B, VCR

ダイレクト録音の場合はこのつまみの位置に関係なく、DIRECT RECORDINGキーで選択されたソースが録音されます。(35ページ「録音(ダイレクト録音・手動録音)」参照。)

マイクミキシング/ミキシング録音

■マイクミキシング

MICジャックにマイク(別売)を接続すると、マイクからの音とソースの音を混合してスピーカーから出すことができます。これをマイクミキシングと呼び、カラオケで唄うときなどに使います。次の手順に従って操作してください。

- ①アンプ部のVOLUMEつまみを左一杯に回します。
 - ②アンプ部のMICジャックにマイクを接続します。マイクにスイッチがある場合は“ON”にしてください。
 - ③お好みのソースを演奏し、VOLUMEつまみで音量を調節します。
 - ④マイクに向かって歌いながらマイクとソースの音量バランスをMIC MIXINGつまみで調節します。MIC MIXINGつまみを右(MIC側)へ回すとマイクの音が大きくなり、ソースの音が小さくなります。左(SOURCE側)へ回すとソースの音が大きくなりマイクの音が小さくなります。
- ※DECK Aでマイクミキシングするときは、PITCH CONTROLつまみで再生スピードを調節することができます。つまみを右へ回すと音程が高くなり、左へ回すと低くなります。

■ミキシング録音

- ①DECK Bにテープを装着し、REC/PAUSEキーを押します。
- ②上記の要領でマイクミキシングを行ないMIC MIXINGつまみでミキシングバランスを調節します。
- ③REC OUTセレクトターを“SOURCE”の位置にします。
※REC OUTセレクトターをSOURCE以外の位置にするとREC OUTセレクトターで選ばれたソースが録音され、ミキシング録音はできません。
- ④曲の始まりにタイミングを合わせてDECK Bの▶キーまたは◀キーを押して録音を始め、そのままマイクに向かって唄えば、ミキシング録音になります。ミキシング録音が終わったら、STOPキーを押してテープを止めてください。

ご注意

- マイクは標準プラグ(直径6.3mm)で、インピーダンス400Ω～3kΩ、感度-74dB前後のものをお使いください。
- マイク音はステレオになりません。
(左右のスピーカーの中央から音が聴こえます。)
- キーンと言うハウリングが起きたときはVOLUMEつまみで音量を下げるか、マイクをスピーカーから遠ざけます。
- 感度の高いマイクや無指向性マイクを使うと、ハウリングを起こしやすくなります。
- DECK AでマイクミキシングしたものをDECK Bへ録音することはできません。

オートファンクションについて

1. インプットセクターを切り替えるだけでPHONO、CD、カセットデッキが自動的にスタートします。
2. 止めるときは、それぞれの機器のストップボタンを押してください。

※オートファンクション機能を使って再生中にインプットセクターを切り替えると、再生中のソースは停止します。

※インプットセクターがすでに“PHONO”または“CD”または“TAPE”になっている場合は、もう一度各々のボタンを押せば、自動的にスタートします。

ただし、リモコンで操作する場合は、各々のPLAYキーを押してください。

※PHONO(レコード)でオートファンクション機能を使うときは、レコードプレーヤーは、P-M555(別売)をお使いください。

サラウンド再生

通常のステレオ再生は前方からだけ立体的に音を聴くことを前提としています。しかし、コンサートホールや劇場では、音は前方から聴こえるだけでなく、高い天井や広い壁に反射してからだ全体を包み込むように聴こえます。これが臨場感や広がり感の要素となっており、これらの臨場感や広がり感を再現しようとするのがサラウンドです。

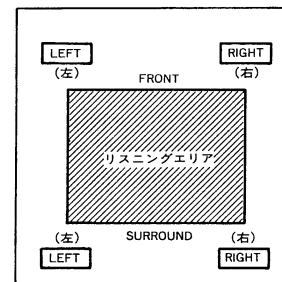
本システムにNS-E555(別売)などのリアスピーカーを2台追加すれば、アンプ部に内蔵のサラウンド回路により劇場で聴く迫力と臨場感やコンサートホールでの音場感に似た音をお楽しみいただけます。

※サラウンドはステレオソースの場合に効果が出ます。モノラルソースを再生するとリアスピーカーから音は出ません。

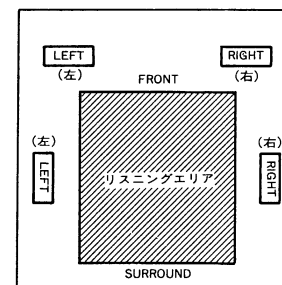
スピーカーシステムの設置例

サラウンド再生は、リアスピーカーの位置によって効果が変わります。下の設置例を参考にリアスピーカーの位置を変えてみてください。

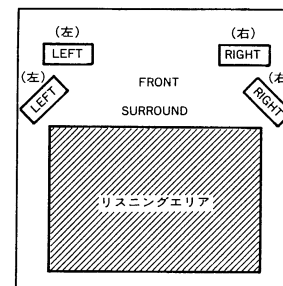
設置例1：コンサートホールや劇場にいるような臨場感



設置例2：目の前で演奏しているような音場



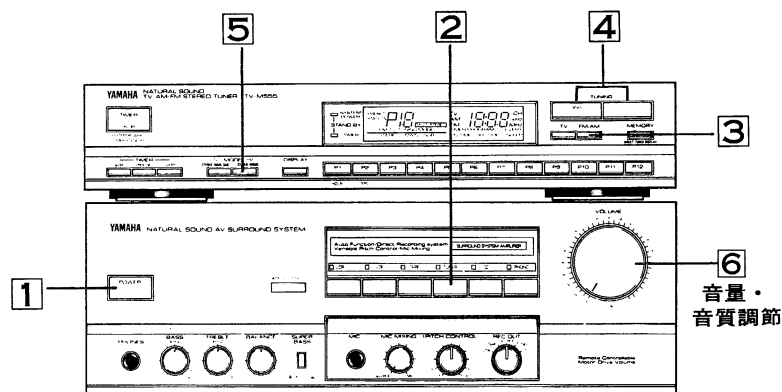
設置例3：音の拡がりが良いので、映画鑑賞に効果的



放送の受信

■FM/AM放送の受信

- ①電源を入れます。20ページ「電源のON/OFFについて」参照。
- ②アンプ部のTUNERキーを押します。
- ③FM/AMキーを押し、“AM”または“FM”を選びます。FM/AMキーを押すごとに“FM”と“AM”が切り替わります。
- ④TUNINGキーの“UP”または“DOWN”を押し続け、目的の放送局の近くに来たら、キーを1回ずつ押して選局します。
- ⑤FMステレオ放送を受信するとMULTI/STEREOインジケーターが点灯します。受信したFMステレオ放送の電波が弱い場合、FM MODEキーを押してください。放送はモノラル受信(MULTI/STEREOインジケーター消灯)になりますが、雑音が軽減できます。
- ⑥音量・音質を調節します。20ページ「音量・音質の調節」参照。

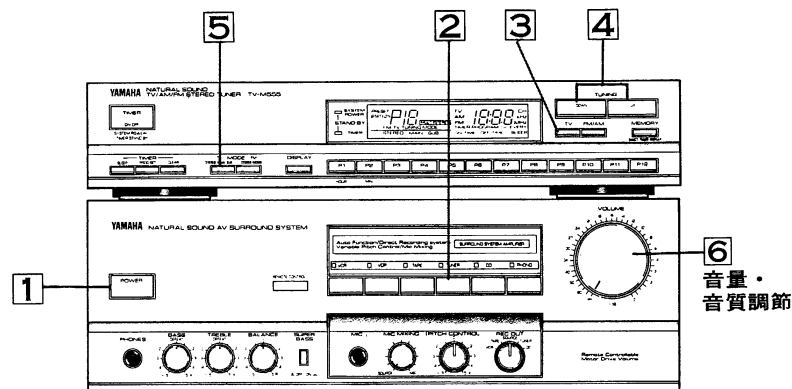


■テレビ放送の受信

- ①電源を入れます。20ページ「電源のON/OFFについて」参照。
- ②アンプ部のTUNERキーを押します。
- ③TVキーを押します。
- ④TUNINGキーの“UP”または“DOWN”を押し、目的のチャンネルを選局します。
- ⑤ステレオ放送または音声多重(2ヶ国語)放送を受信するとMULTI/STEREOインジケーターが点灯します。その場合は、TV MODEキーを押して希望の受信モード(音声)を選択してください。音声は下表のように切り替わります。
- ⑥音量・音質を調節します。20ページ「音量・音質の調節」参照。

	ステレオ放送	音声多重(2ヶ国語)放送
STEREO	ステレオ	主副ミックス
MAIN	モノラル	主音声
SUB	モノラル(ボイスが小さく聞こえます。)	副音声

※モノラル放送のときにTV MODEキーを押すとインジケーターは、STEREO→MAIN→SUB→STEREOの順に切り替わりますが、音声はモノラルのままで変化しません。



プリセットメモリーの使いかた

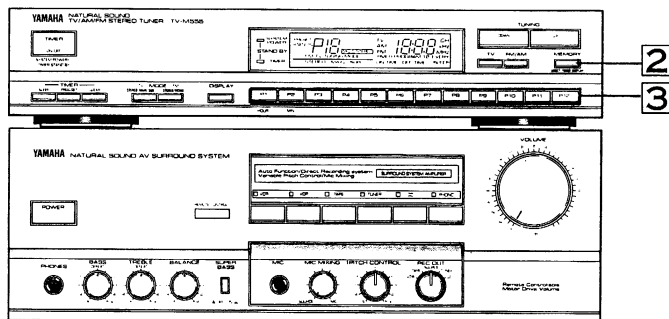
■プリセットのしかた

テレビ局12局、FM/AM局合わせて12局の計24局がプリセットできます。

- ①23ページの「放送の受信」を行ないプリセットしたい局を受信します。
- ②MEMORYキーを押します。メモリーできる状態となり、ディスプレイの「PRESET STATION P」が数秒間点滅します。
- ③ディスプレイの「PRESET STATION P」が点滅している間にプリセットナンバーキー(P 1～P 12)を押します。プリセットは完了し、ディスプレイの「PRESET STATION P」は点滅から点灯に変わり、プリセットナンバーを表示します。

※プリセットナンバーキーを押すまえに「PRESET STATION P」が消えたら再度MEMORYキーを押します。

1 放送の受信

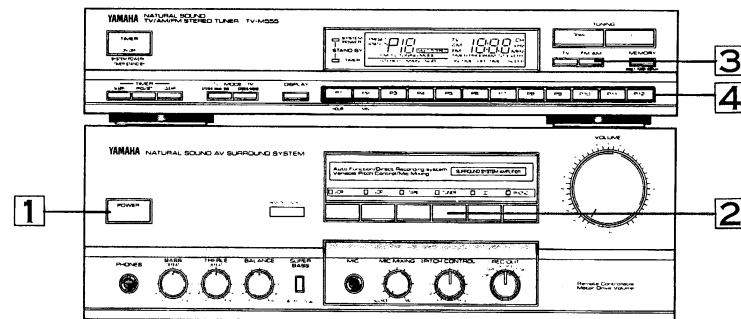


■プリセットの変更

プリセットの方法と同じ手順で再度プリセットしなおします。

■プリセット選局

- ①電源を入れます。20ページ「電源のON/OFFについて」参照。
- ②アンプ部のTUNERキーを押します。
- ③チューナー部のTVキーとFM/AMキーで受信するバンドを指定します。
- ④ご希望のプリセットナンバーキー(P 1～P 12)を押します。



放送を聴く


■ラストチャンネルメモリー機能

A局を受信中に電源を切ると、再度電源を入れたときに自動的にA局が受信されます。

また、それぞれに設定されていた受信モード(TV：STEREO, MAIN, SUB/FM：STEREO, MONO)は電源スイッチをOFFにしてもメモリーされていますが、電源コードを抜き差しした場合や停電があった場合にはバックアップされず初期状態に戻ります。

メモリーのバックアップ期間は約3日間です。電源コードを長時間通電されなかった場合には、しばらく通電した後、プリセットを再セットしてください。

CD(コンパクトディスク)の取り扱い方

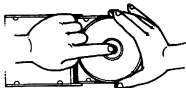
 マークのあるCDをお使いください。

ケースからの取り出し方

1. 右手でケースの両横側面を支え、左手で上下側面を持ってフタを開きます。



2. 左手の指先でケースのセンターホルダーを押さえ、右手でCDを持ち上げます。



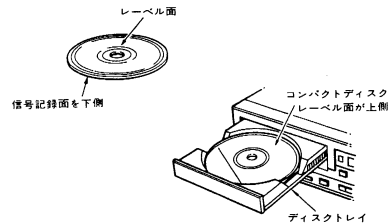
3. できるだけCDの縁を持つようにして、表面に触れないように扱ってください。



CDのセット

CDのセットは、必ずレーベル面を上にしてセットしてください。(CDの演奏は片面だけです)

市販のCD用スタビライザーなどの使用は、ディスクを傷つけるだけでなく故障の原因になることがありますのでご使用にならないでください。



- レーベル面に紙などを貼ったり、ボールペンなどで文字を書かないでください。



- 演奏が終わったCDは必ずケースに入れて保管してください。



- レコードスプレー、帯電防止剤、ベンジン、シンナーなどで絶対に拭かないでください。CDはプラスチック製です。これらの化学薬品で表面が侵されることがあります。



- 曲げたりしないでください。



取り扱いの注意

- 信号記録面に指紋やほこりがついたら、柔らかい布などで軽く内側中心から外側へ放射状に拭いてください。CDには、レコード盤のような音溝はありません。ほこりや汚れがついたら柔らかい布で軽く拭き取るだけで充分です。多少のほこりや汚れは、音質には全く影響ありません。



- 直射日光が当たる場所や、高温多湿な場所へ長時間置かないでください。CDを高温場所に長時間放置すると変形などの原因となります。

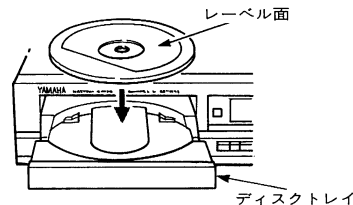


- 表面に傷をつけないよう、特にケースからの出し入れには注意してください。



演奏と基本操作

- ①システムとCDプレーヤー部の電源を入れます。20ページ「電源のON/OFFについて」参照。
- ②△キーを押してディスクトレイを開けます。
- ③CDをセットします。



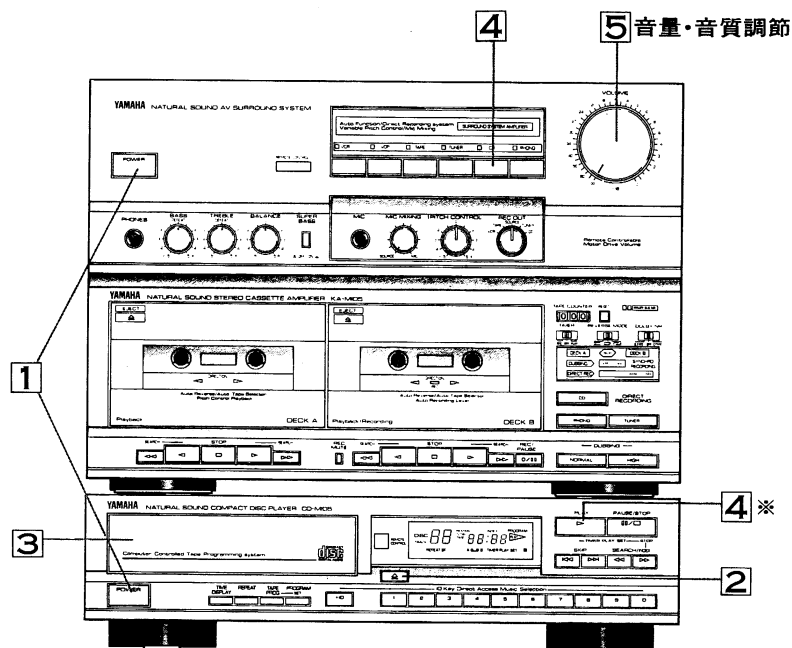
- ④アンプ部のCDキーを押して演奏をスタートします。

※アンプ部のインプットセクターがすでにCDを選択している場合は、PLAYキーを押して演奏をスタートします。

- ⑤音量・音質を調節します。20ページ「音量・音質の調節」参照。

ご注意

- CDプレーヤーの演奏は、PLAYキーで始めることもできますが、PLAYキーを押してもアンプ部のインプットセクターは切り替わりません。
- オートファンクションでCDプレーヤーを演奏中にアンプ部のインプットセクターを他のソースに切り替えるとCDの演奏は停止します。
- ディスクトレイは動作中に手で無理に閉閉しないでください。
- 偏芯したディスクはCDプレーヤーの内部で異音を発することがありますので、ご使用にならないでください。
- ディスクトレイには不要物を入れないでください。
- ディスクトレイは使用しないときはゴミやホコリを防ぐため閉めておいてください。



■早送り・早戻し

演奏中または一時停止中に<<キーを押して早戻し、>>キーを押して早送りができます。

●演奏中(音出しサーチ)

<<キーまたは>>キーを押し続けると最初の3秒間は低速、それ以上押し続けると高速の早送り・早戻しとなります。動作中は再生音が小さい音(1/4)で聴こえます。聴きたい位置で指を離すと、その位置から演奏を再開します。

●一時停止中

<<キーまたは>>キーを押し続けると高速の早送り・早戻しとなります。聴きたい位置で指を離すと、その位置で一時停止状態になります。

●停止中

<<キーまたは>>キーを押すと、インデックスサーチとなります。28ページの「インデックスサーチ」を参照してください。

■演奏の停止

PAUSE/STOPキーを2回押します。演奏がストップし、最初の曲の頭で待機します。アンプ部の入力セレクターをCDから他のポジションに切り替えても停止します。

■演奏の一時停止

PAUSE/STOPキーを1回押します。演奏しているところで一時停止します。再度演奏をはじめるときはPLAYキーを押します。PAUSE/STOPキーを1回押した状態でもう一度このキーを押すと、停止状態になります。

■ディスクを取り出すには

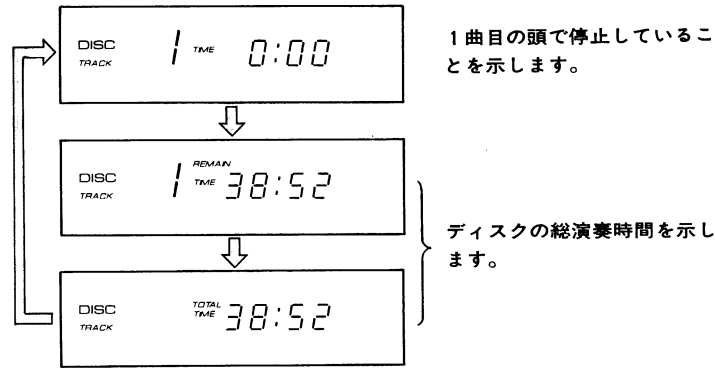
△キーを押します。このキーを押せば、いつでもディスクトレイが出てきます。ディスクを取り出したら、もう一度△キーを押してディスクトレイを閉めてください。

CDを聴く

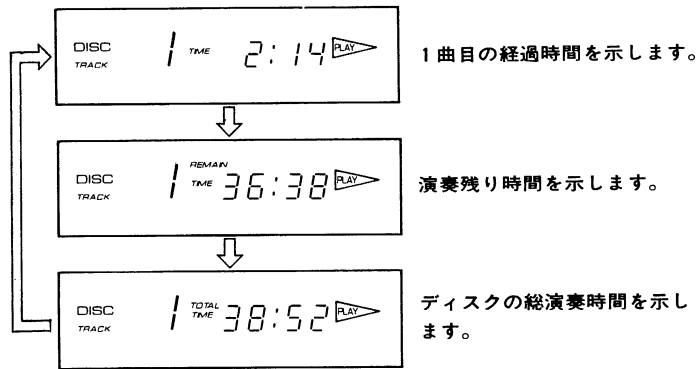
ディスプレイ表示について

TIME DISPLAYキーを押すとディスプレイの表示内容が次のようになります。

■停止しているとき

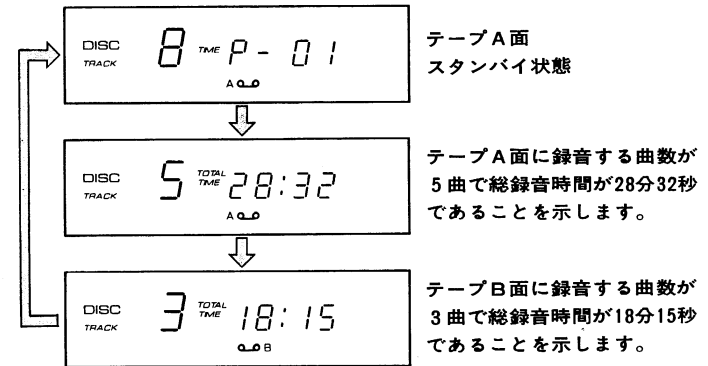


■演奏しているとき



■テーププログラム録音(37ページ参照)がセットされ、停止しているとき

テープA面とB面の総録音時間をチェックできます。



■テーププログラム録音を行なっているとき

テープA面録音中は、テープAプログラム面の経過時間と残量時間と総録音時間が順番に表示されます。またテープB面の場合も同様の表示となります。

■プログラムがセットされ、停止しているとき

プログラムをセットした状態で停止中は、プログラムされた曲の総演奏時間(オートスペースを含む)と残量時間(オートスペースを含む)が交互に表示されます。

例. 2:00の曲、3:00の曲と5:00の曲の総演奏時間は、オートスペースの時間を加算するため10:08と表示されます。

$$\begin{array}{r}
 2:00 \\
 3:00 \\
 + 5:00 \\
 \hline
 10:00
 \end{array}
 \begin{array}{l}
 \text{オートスペース } 0:04 \\
 \text{オートスペース } 0:04 \\
 \hline
 + 0:08 = 10:08
 \end{array}$$

■プログラムがセットされ、PLAYしているとき

プログラムされた曲の総演奏時間と残量時間が交互に表示されます。

インデックスサーチ

■インデックスナンバーとは

クラシック音楽などのディスクで1曲がいくつもの楽章によって構成されている場合、各楽章に番号が付けられている場合があります。インデックスナンバーと呼ばれています。演奏するまえにディスクの解説書でお確かめください。

■インデックスサーチ

- ①PAUSE/STOPキーを2回押し、停止状態にします。
- ②曲番を<K>キー(SKIP)または▷▷キー(SKIP)で選びます。選ばれた曲の頭で停止状態となります。
- ③INDEXキー(<<キーと▷▷キー)で希望するインデックスナンバーを表示させます。インデックスナンバーは▷▷キーを押すと増え、<<キーを押すと減ります。
- ④PLAYキーを押して演奏を始めます。指定したインデックスナンバーから演奏が始まります。
 - ※ディスクに記載されているインデックスより大きな数を指定した場合、最終インデックスが演奏されます。
 - ※インデックスサーチのときは曲の少し前から演奏することがあります。
 - ※インデックスの頭出しが終わると、インデックスサーチは解除されます。
 - ※インデックスの記録されていないディスクの場合、選曲した曲の頭から演奏が始まります。

ダイレクト選曲

聴きたい曲番を数字キーで指定すれば、ワンタッチで選曲することができます。

1. アンプ部のCDキーを押して、CDの演奏を始めます。
2. CDプレーヤー部の数字キーで聴きたい曲番を指定します。例えば5曲目を選曲したいときは、数字キーの“5”を押すと、選曲された曲番へ移り演奏を始めます。
 - ※数字キーの代わりに<K>キーまたは▷▷キーで選曲することもできます。
 - ※数字キーでディスクに収録されている曲番より大きい曲番を指定した場合、自動的に最後の曲の演奏となります。
 - ※一時停止中に選曲した場合、指定された曲の頭で一時停止状態となります。
 - ※停止中に選曲した場合、選曲された曲番から演奏を始めます。

— +10キーについて —

2桁の曲番を選曲するときには+10キーを押して10の位を指定します。

例えば……25曲目を聴くには

1. +10キーを2回押します。
2. 数字キーの“5”を押します。

※+10キーを押し過ぎた場合、続けて押し続けければ0_に戻ります。

スキップ選曲

演奏中または一時停止中に前後の曲の頭出しが簡単に行なえます。

■次の曲に進めるには

▷▷キーを押します。演奏中に▷▷キーを押すと次の曲の頭へ進み演奏を始めます。

■前の曲に戻すには

<<キーを2回押します。演奏中に<<キーを1回押すと現在演奏中の曲の頭へ戻り、2回押すと前の曲の頭へ戻り演奏を始めます。

※▷▷キーを押すごとに次の曲の頭に移ります。押し続けると連続的に変化し、最終曲番で止まります。

※<<キーを押すごとに前の曲の頭に戻ります。(演奏中はその曲の頭へまず戻ります。) 押し続けると連続的に変化し、1曲目の頭で止まります。

プログラム演奏

聴きたい曲だけ好きな順番にならびかえて最大24曲まで演奏できます。プログラムの入力には数字キーを押すだけで行なえるダイレクトプログラム機能を採用しています。

例えば……2曲目、6曲目、5曲目の順番でプログラムするとき

- ①PAUSE/STOPキーを2回押し、停止状態にします。
- ②PROGRAMキーを押します。曲番の入力待ち状態になります。
- ③数字キーの“2”を押します。P-01に2曲目が設定されます。
- ④数字キーの“6”を押します。P-02に6曲目が設定されます。
- ⑤数字キーの“5”を押します。P-03に5曲目に設定されます。これでプログラムのセットは完了です。
- ⑥PLAYキーを押して、プログラム演奏を始めます。

■プログラム演奏中一時停止するには

PAUSE/STOPキーを1回押します。再度演奏を始めるときは、PLAYキーを押してください。

■プログラム演奏中停止するには

PAUSE/STOPキーを2回押します。

■プログラム演奏中の頭出し操作

◀◀キーまたは▶▶キーを押すと、プログラムされている曲の頭出しを行なえます。
 ※一時停止状態でも頭出しを行なうことができます。

■プログラム演奏中の早送り、早戻し操作

◀◀キーまたは▶▶キーを押すとプログラムされている曲に関係なく早送り・早戻しができます。プログラムしていない曲に早送りまたは早戻しで移動したときは、その曲の演奏が終わると、プログラム演奏に戻ります。

■プログラム内容のチェックと変更および追加

ストップ状態で▶▶キーを押すたびに“P-01”から順番にプログラム内容を表示させることができます。プログラムを進めるときは▶▶キー、戻すときは◀◀キーを使います。さらに数字キーによってそのプログラムを変更および追加することができます。

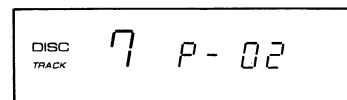
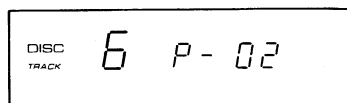
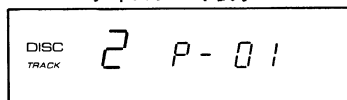
※プログラムされている曲数を減らすときは、プログラムを一旦解除し、改めて1曲目からプログラムしなおしてください。

例. 表のようにP-02を7曲目に変更し、P-04を追加する場合

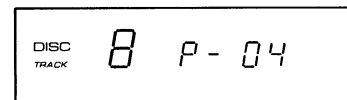
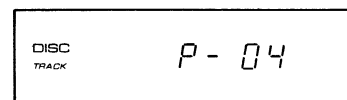
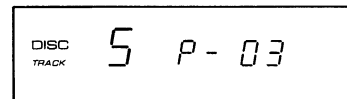
プログラムNo.	P-01	P-02	P-03		プログラムNo.	P-01	P-02	P-03	P-04
曲番	2	6	5	⇒	曲番	2	7	5	8

キー操作

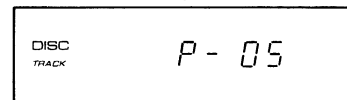
ディスプレイ表示



↓ 0.5秒後



↓ 0.5秒後



これでセット完了です。

■プログラムの解除

△キーを押してディスクトレイを開くと、プログラムは全て解除されます。ディスクを入れたまま電源を切ってもプログラムはメモリーされているため、タイマープレートをセットしておくで電源ONと同時にプログラムした曲でタイマープレー機能(30ページ)がはたらき、CDのプログラム演奏がスタートします。また電源のON/OFFはプログラムタイマーでも可能です。

タイマー演奏については43ページ「目覚まし再生」をご覧ください。

— ご注意 —

- インデックスのプログラム演奏はできません。
- プログラムの総演奏時間が99分59秒を越えたときのTOTAL TIME表示は100分を引いた残りの時間を表示します。
- 24曲以上入っているディスクを使用して、TRACK NO.が24以上の曲番をプログラムしたときはTOTAL TIMEは表示されません。

リピート演奏

ディスクの全曲または1曲だけをくり返し演奏することができます。

■ 1曲リピート：REPEAT S (Single)

同じ曲をくり返し演奏します。

REPEATキーを押し、ディスプレイにREPEAT Sを点灯させます。この状態で演奏を始めると、1曲リピートがはたらきます。また演奏中にこの状態にしても1曲リピートははたらきます。

※プログラム演奏中も1曲リピートははたらきますが、テーププログラム中は、できません。

■ 全曲リピート：REPEAT F (Full)

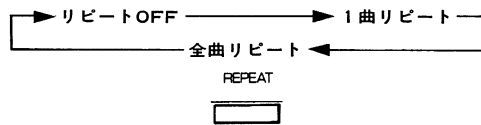
ディスクの全曲をくり返し演奏します。

REPEATキーを押し、ディスプレイにREPEAT Fを点灯させます。この状態で演奏を始めれば全曲リピートがはたらきます。また演奏中にこの状態にしても全曲リピートははたらきます。

※プログラムした曲にも全曲リピートははたらきますが、テーププログラム中は、できません。

● リピートモードの切り替えについて

REPEATキーを押すたびにリピート機能が切り替わります。



ご注意

- インデックスのリピート演奏はできません。
- 電源を切るとリピート演奏は解除されます。

■ リピート演奏を解除するには

REPEATキーを押し、ディスプレイの表示(REPEAT SまたはREPEAT F)を消します。

タイマープレー機能

電源がONになったとき、CDプレーヤーを自動スタートさせる機能です。

あらかじめプログラムをしておくと、電源ONと同時にプログラム演奏を自動スタートすることができます。またこの機能は、プログラムタイマーを使ってもはたらきます。(プログラムタイマーの使い方は43ページ参照。)

- ① アンプ部のインプットセレクターのCDが選択されている状態にします。
- ② タイマープレーしたいCDをセットします。
プログラム演奏するときは、この状態で聴きたい曲をプログラムします。
- ③ PAUSE/STOPキーを押しながらPLAYキーを押します。
ディスプレイのTIMER PLAY SETインジケーターが点灯します。
- ④ 電源をOFFにします。

電源のOFFは次の3種類の方法で、いずれの場合もタイマープレー機能ははたらきます。

- CDプレーヤー部のPOWERキーを押す。(CDのみ電源OFF)
- アンプ部のPOWERキーを押す。(システムの電源OFF)
- チューナー部のTIMERキーを押す。(プログラムタイマーをセットしておきます。)

- ⑤ 電源をONにします。(プログラムタイマーの場合は自動的にON)

タイマープレー機能がはたらき、自動的にCDの演奏が始まります。

※音量・音質はあらかじめ調節しておいてください。20ページ「音量・音質の調節」参照。

■ タイマーを解除するには

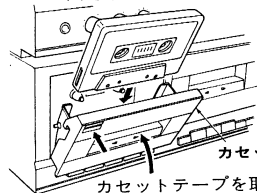
CDプレーヤーがストップ状態のとき、PAUSE/STOPキーを押しながら、PLAYキーを押します。TIMER PLAY SETインジケーターが消えて、タイマープレーが解除されます。

録音・再生を始める前に

■カセットテープの装着

- ①カセットホルダーのEJECT表示部を押し、カセットホルダーを開きます。
- ②カセットテープのテープ面を下にしてホルダー内側のテープガイドにそって装着します。
- ③カセットホルダーの上部中央を押し閉めます。

テープ面を下にして入れます。



カセットホルダー

カセットテープを取り出すときはSTOPキーを押して動作を停止させてから、カセットホルダーのEJECT表示部を押し、ホルダーを開いて取り出します。

ご注意

- カセットデッキを使用しないときはホルダーを閉めておいてください。
- カセットテープの動作中にカセットホルダーを押さないでください。故障の原因になります。

■カセットテープについて

市販のカセットテープには多種多様の製品がありますが、その構造については規格が統一されており、各メーカーのものが共通に使用できます。

ご注意

規格外のテープを使用すると、テープ走行不良などの不具合が生じる場合がありますので、ご使用にならないでください。

カセットテープの録音時間による分類

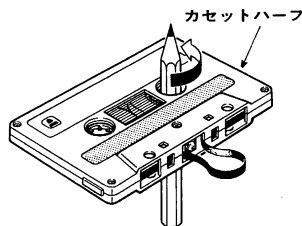
カセットテープの型名は、両面往復時間を“分”単位で表示してあります。

種類	録音再生時間		テープの長さ(m)
	片道(分)	往復(分)	
C-46	23	46	68
C-60	30	60	90
C-90	45	90	135

※C-120テープは、テープが薄いため音質面でも音楽録音には適当ではありません。できるだけ左記のテープをご使用ください。

テープのたるみを直す

テープがとび出したり、たるんだままご使用になりますと、キャプスタンやピンチローラーにテープがからみついたりする原因となります。こんな場合には、カセットハーフのリール軸に鉛筆などを差込んで巻き取り、テープのたるみを直してからご使用ください。



カセットハーフ

カセットテープの保管は

カセットケースに入れ、直射日光(高温)、湿気および磁気のあるところ(テレビやスピーカーの近く)を避けて保管してください。高温や湿気はテープをいため、磁気は録音内容を消してしまいます。

■リバースモードについて

カセットデッキ部はテープの走行方向を自動的に反転するオートリバース機能を持っています。オートリバースには下表のように3つのモードがあり、REVERSE MODEセレクターで選択します。

モード	状態	再生のとき	録音のとき(DECK B)	早送りのとき
→	→	片面の再生が終わるとテープエンドで停止します。	片面の録音が終わるとテープエンドで停止します。	テープエンドで停止します。
↪	↪	片面の再生が終わるとテープエンドで反転し、もう片方を再生した後テープエンドで停止します。	片面の録音が終わるとテープエンドで反転し、もう片方を録音した後テープエンドで停止します。	テープエンドで反転し、再生となります。
↻	↻	テープエンドで反転を繰り返して再生し続けます。(8回まで反転します。)	両面に録音が終わるとテープエンドで停止します。	

■ピッチコントロール機能

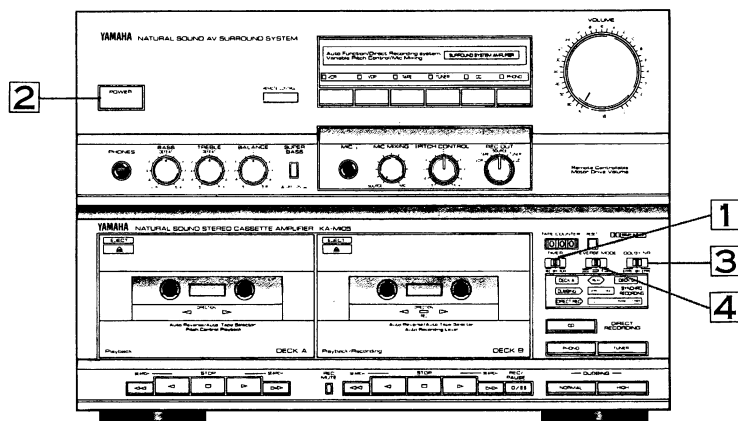
カセットアンプ部のPITCH CONTROLつまみを回すことにより、テープの再生速度を変えることができます。マイクミキシングなどで音程を合わせるのに便利です。

- ピッチコントロールはDECK Aのみはたつきません。
- 通常はつまみをセンターの位置にセットしてください。
- 音程は^{プラス}側、^{マイナス}側それぞれ半音以上変化します。
- DECK AからDECK Bへテープダビング(テープコピー)するときは、PITCH CONTROLつまみをセンターの位置にセットしておかないと、正常なスピードでダビングできません。
- PITCH CONTROLつまみを^{マイナス}にしてテープ走行中に電源を切ると、再生ヘッドが停止位置まで下がらず、カセットテープが取り出さない場合があります。このような場合は、再度電源を入れ、カセットテープを取り出してください。

テープ再生の準備

テープの再生を始めるまえに、次の手順で準備を行ないます。

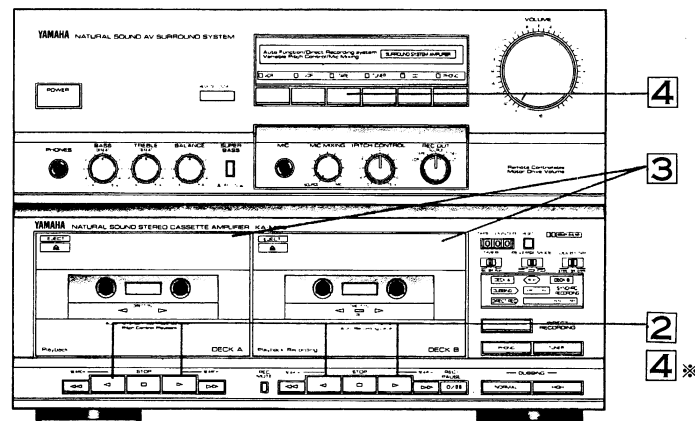
- 1 カセットデッキ部のTIMERスイッチをOFFにします。
- 2 POWERキーを押し、電源を入れます。
- 3 DOLBY NRスイッチを再生するテープに合わせます。49ページ「ドルビーNRについて」参照。
- 4 リバースモードを選択します。
(31ページ「リバースモードについて」参照。リレー再生の場合は33ページ参照。)



テープ再生

- 1 上記の「テープ再生の準備」を行ないます。
- 2 テープの走行方向を決めます。再生はDECK A、DECK Bどちらでもできます。
- 3 DECK AまたはDECK Bへテープを装着します。
- 4 TAPEキーを押すとファンクションが切り替わり、再生が始まります。
※アンプ部のインプットセレクターがすでにTAPEになっている場合は、再生キー(◀キーまたは▶キー)を押して再生を始めます。▶キーを押すと左から右(フォワード)、◀キーを押すと右から左(リバース)方向でテープ再生が始まります。
- 5 音量・音質を調節します。20ページ「音量・音質の調節」参照。

1 再生の準備



5 音量・音質調節

- テープを止めるには
再生している側のSTOPキーを押してテープを止めます。
- TAPE COUNTER/RESETキーについて
TAPE COUNTERはDECK Bのテープ走行量を表示します。この表示はRESETキーを押すと“000”になります。
- テープ再生の優先順位
DECK AとDECK Bの両方の再生音を同時に聴くことはできません。片方のDECKを再生中にもう片方のDECKの再生を始めると、最初に再生していたDECKは停止し、後に再生を始めた側の再生音となります。

テープを聴く

曲の頭出し

再生中に次の曲または現在聴いている曲の頭をワンタッチで探すことができます。
▷(フォワード)方向の再生中は▶▶ キーで次の曲、◀◀ キーで現在聴いている曲や前の曲の頭出しとなり、◀(リバース)方向の再生中は逆の動作になります。

■もう一度同じ曲を聴くには



現在聴いている曲の頭に戻り、再生が始まります。曲の始めの部分(約10秒以内)で頭出し操作を行なうと、前の曲の頭出しとなります。

■次の曲を聴くには



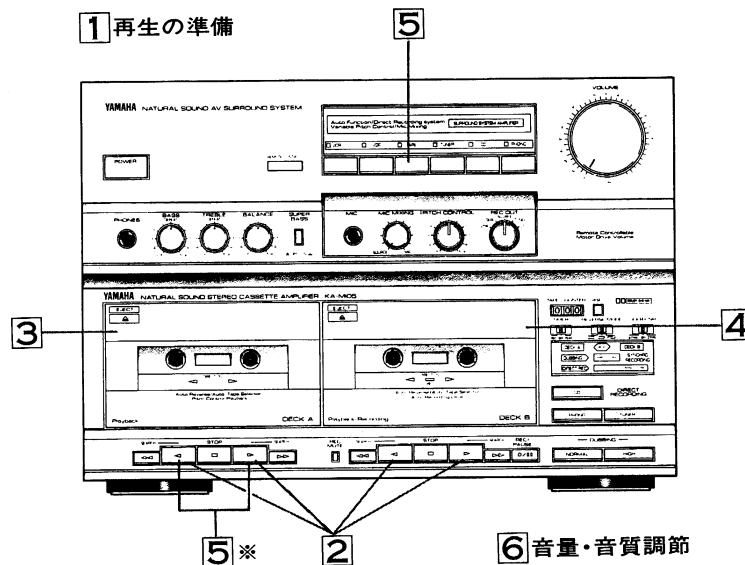
次の曲の頭まで早送りし、再生が始まります。

※曲の頭出しは、曲と曲の間の無録音部(約4秒以上)を検出して行ないません。したがって曲間が極端に短い場合や、曲間に雑音などが入っている場合は誤動作することがありますが、これは故障ではありません。

リレー再生

DECK AとDECK Bを交互に再生できます。長時間再生するときに便利です。

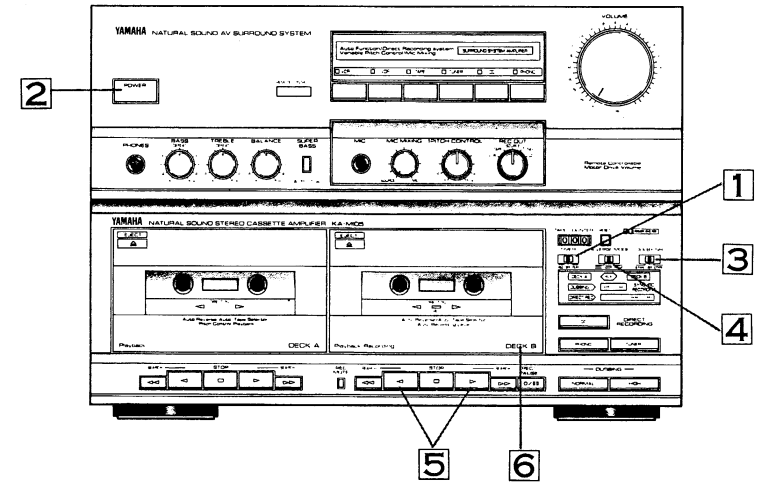
- ①32ページの「テープ再生の準備」を行ないます。(リバースモードについては34ページをご覧ください。)
- ②DECK A、DECK Bのテープ走行方向を決めます。
- ③先に再生するテープをDECK Aにセットします。
- ④後に再生するテープをDECK Bにセットします。
- ⑤TAPEキーを押すとファンクションが切り替わり、DECK Aインジケータが点灯し、DECK Aからリレー再生が始まります。
※アンプのインプットセレクターがすでにTAPEになっている場合、DECK Aの再生キー(◀キーまたは▶キー)を押して再生を始めます。▷キーを押すと、左から右(フォワード)、◀キーを押すと右から左(リバース)方向でリレー再生が始まります。
- ⑥音量・音質を調節します。20ページ「音量・音質の調整」参照。



録音の準備

テープの録音を始めるまえに、次の手順で準備を行ないます。

- ①カセットデッキ部のTIMERスイッチをOFFにします。
- ②POWERキーを押し、電源を入れます。
- ③DOLBY NRスイッチを選択します。49ページ「ドルビーNRについて」参照。
- ④リバースモードを選択します。31ページ「リバースモードについて」参照。
- ⑤DECK Bのテープ走行方向を決めます。録音はDECK Bで行ないます。
- ⑥DECK Bへテープを装着します。



※録音レベルは、自動録音レベル調節(ALC)回路によって、自動的に調節されます。録音中にアンプのVOLUMEツマミを動かしても録音には影響しません。

■リバースモードとリレー再生について

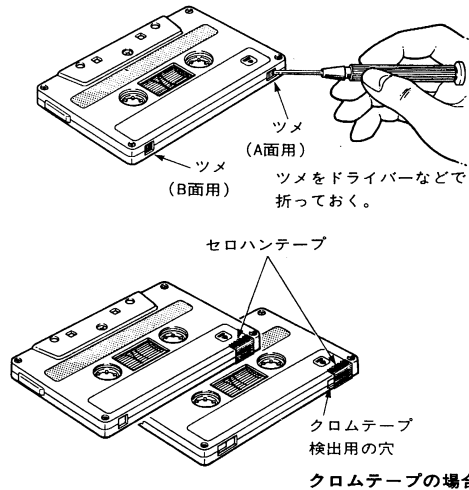
リレー再生では、REVERSE MODEセレクトターの位置によって動作が異なります。下表を参考にREVERSE MODEセレクトターをセットしてください。

リバースモード	リレー再生動作
	<p>DECK Aの片面の再生が終わるとDECK Bに移ります。 ※再生キーによって指定された面だけが再生されます。 ※DECK Bからスタートした場合は、DECK Bの再生が終わると停止状態になり、DECK Aには移りません。</p>
	<p>DECK A両面の再生が終わるとDECK Bに移ります。 ※DECK A、DECK Bともに、再生キーによって指定された面から再生がスタートします。ただしDECK Bを「◀」方向からスタートした場合はDECK Bの再生が終わると停止状態になりDECK Aには移りません。</p>
	<p>DECK Aの両面、DECK Bの両面をくり返して再生します。(8回まで) ※2本とも90分テープを使用し、DECK Aからリレー再生を始めると、24時間のロングプレイが可能となります。 ※DECK Bからスタートした場合は、DECK Aが7回、DECK Bが8回のくり返しとなります。 ※「◀」方向からスタートした場合、最初の片面の再生が終わったところで1回と数えられます。</p>

録音(ダイレクト録音・手動録音)

録音内容の保存

カセットテープには、大切な録音を誤って消去しないように誤消去防止用の穴があります。録音後、この穴のツメをドライバーなどで取り去ると、録音内容をいつまでも保存することができます。またツメを折ったテープに再び録音したい場合には、セロハンテープなどで穴をふさいでください。



ご注意

あなたが本機で録音したものは個人として楽しむなどのほかは、著作権法上の権利者に無断で使用できません。

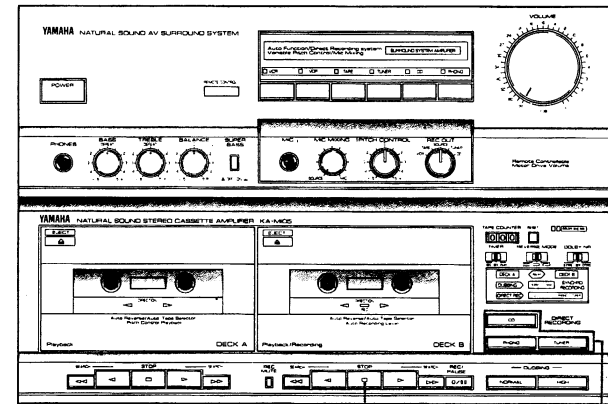
本システムによる録音方法はダイレクト録音と手動録音の2通りがあります。ダイレクト録音はワンタッチでソース(チューナー・CDプレーヤー・レコードプレーヤー)の演奏と録音を同時にスタートする機能です。手動録音はソースの演奏と録音のスタートを手動で行なうものです。

またダイレクト録音の場合は、インプットセレクターやレックアウトセレクターがどの位置にあっても優先的に録音することができます。

さらにCDダビングのために、用途に合わせたテープ編集機能を搭載しています。

[ダイレクト録音]

- 1 録音の準備
- 2 録音するソースの再生(または受信)準備



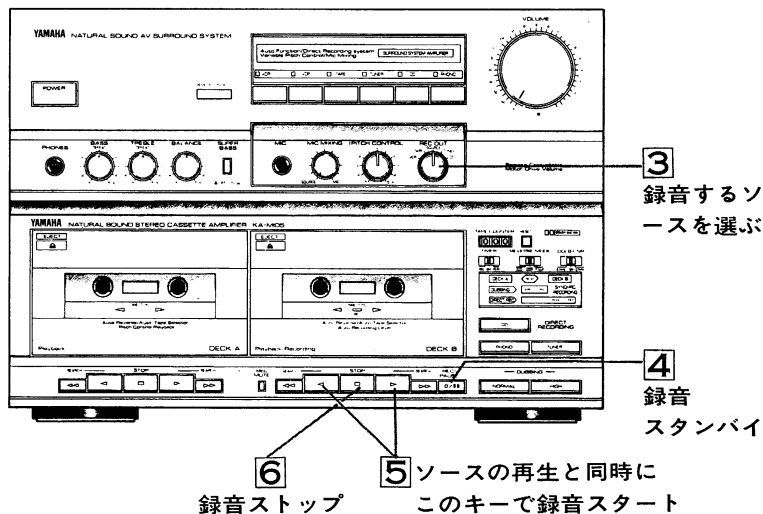
4
ダイレクト録音ストップ

3
ダイレクト録音スタート
CD：CDの録音
PHONO：レコードの録音
TUNER：放送の録音

〔手動録音〕

1 録音の準備

2 録音するソースの再生(または受信)準備



■TVまたはFM/AM放送の録音

〔ダイレクト録音〕

- 1 34ページの「録音の準備」を行ないます。
- 2 録音したい番組の放送局を受信します。
- 3 番組を聴きながら、録音をスタートしたいところでカセットデッキ部のDIRECT RECORDINGキーのTUNERキーを押します。録音が始まります。
※ダイレクト録音は、インプットセレクターやREC OUTセレクターの位置に関係なく行なうことができますので、録音中に他のソースを自由に聴くことができます。
- 4 録音を止めるときは、DECK BのSTOPキーを押してください。

〔手動録音〕

- 1 34ページの「録音の準備」を行ないます。
- 2 録音したい番組の放送局を受信します。
- 3 アンプ部のREC OUTセレクターを“SOURCE”または“TUNER”にセットします。
(21ページ「REC OUTセレクターについて」参照。)
- 4 カセットデッキ部のREC/PAUSEキーを押します。RECインジケータが点灯し録音スタンバイ状態となります。
- 5 番組を聴きながら録音をスタートしたいところでカセットデッキ部の▷キーまたは◁キーを押し、録音をスタートします。
- 6 録音を止めるときは、DECK BのSTOPキーを押します。

— 手動録音時の注意 —

- REC OUTセレクターが“SOURCE”の場合、録音中にアンプ部のインプットセレクターを押ししたり、ACCESSORY端子に接続されたEQ-M555(別売)などの機器を操作すると、録音中のソースが切り替わってしまったり、周波数特性が変わってしまいますので、十分ご注意ください。

■CDの録音(基本的な方法)

[ダイレクト録音]

- ①34ページの「録音の準備」を行いません。
- ②録音したいディスクをCDプレーヤーにセットします。
- ③カセットデッキ部のDIRECT RECORDINGキーのCDキーを押します。アンプ部のインプットセレクターが自動的にCDに切り替わりCDの演奏とデッキの録音が同時にスタートします。
※ダイレクト録音は、インプットセレクターやREC OUTセレクターの位置に関係なく行なうことができますので録音中に他のソースを自由に聴くことができます。
- ④録音を止めるときは、DECK BのSTOPキーを押し、CDプレーヤー部のPAUSE/STOPキーを2回押します。

[手動録音]

- ①34ページの「録音の準備」を行いません。
- ②録音したいディスクをCDプレーヤーにセットし、録音したい曲の頭で一時的に停止させます。
- ③アンプ部REC OUTセレクターを“SOURCE”または“CD”にセットします。
(21ページ「REC OUTセレクターについて」参照。)
- ④カセットデッキ部のREC/PAUSEキーを押します。RECインジケーターが点灯し録音スタンバイ状態となります。
- ⑤CDプレーヤー部のPLAYキーとカセットデッキ部の▷キーまたは◁キーを同時に押し、CDの演奏と録音をスタートさせます。
- ⑥録音を止めるときはDECK BのSTOPキーを押し、CDプレーヤー部のPAUSE/STOPキーを2回押します。

手動録音時の注意

- REC OUTセレクターが“SOURCE”の場合、録音中にアンプ部のインプットセレクターを押したり、ACCESSORY端子に接続されたEQ-M555(別売)などの機器を操作すると、録音中のソースが切り替わってしまったり、周波数特性が変わったりしますので、十分ご注意ください。



■CDの編集録音(2モードCDダビング)

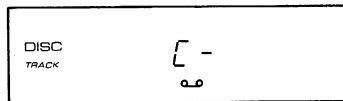
[お好みの曲だけ録音するには]

- ①34ページの「録音の準備」を行いません。
- ②録音したいディスクをCDプレーヤーにセットします。
- ③CDプレーヤー部で録音したい曲をプログラムします。(28ページ「プログラム演奏」参照)
- ④カセットデッキ部のDIRECT RECORDINGキーのCDキーを押します。アンプ部のインプットセレクターが自動的にCDに切り替わりCDのプログラム演奏とデッキの録音が同時にスタートします。
- ⑤録音を止めるときはDECK BのSTOPキーを押し、CDプレーヤー部のPAUSE/STOPキーを2回押します。






[テーププログラム録音]

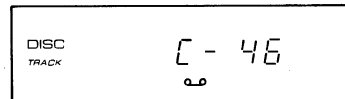
テープ両面の録音時間をCDプレーヤーに入力することによりCDプレーヤー内部のマイコンが、テープA面、B面に収まるようにランダムプログラムを行ない、テープ録音する機能です。

- ①34ページの「録音の準備」を行いません。このとき、REVERSE MODEセレクターは  または  の位置にセットします。
- ②録音したいディスクをCDプレーヤーにセットします。
- ③CDプレーヤー部のTAPE PROGキーを押し、テーププログラムモードに入ります。

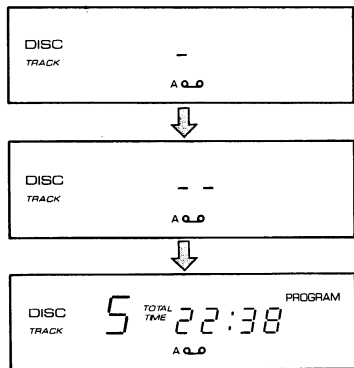


※00の表示はテーププログラムモードであることを示します。

- ④テープ両面の録音時間を数字キーでセットします。
例. C-46(46分テープ)をセットするには、     と押します。

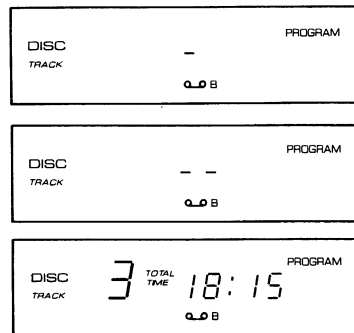


⑤ CDプレーヤー部のPROGRAMキーを押します。テープのA面に録音する曲が自動的にランダムプログラムされます。



A面がセットされると、「PROGRAM」表示が点灯します。
この場合、プログラム曲数が5曲でA面の総演奏時間が22分38秒であることを示しています。
なお、この時間は、曲間のスペース(約4秒)を含んでいます。

⑥ もう一度PROGRAMキーを押します。テープのB面に録音される残りの曲が自動的にランダムプログラムされます。



この場合、プログラム曲数が3曲でB面の総演奏時間が18分15秒であることを示しています。

⑦ カセットデッキ部のDIRECT RECORDINGキーのCDキーを押し、録音を始めます。

⑧ テープ反転後、CDプレーヤー(一時停止状態で待機しています)のPLAYキーを押して、テープB面の録音を開始します。

⑨ 録音を止めるときはDESK BのSTOPキーを押し、CDプレーヤー部のPAUSE/STOPを2回押します。

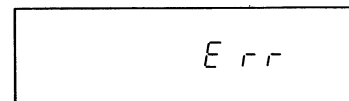
※ テーププログラム終了後、>>キーまたは<<<キーを押すことにより、プログラムされた内容を確認することができます。

※ テープA面に録音する曲が全て演奏し終るとCDプレーヤーはテープがB面に反転するまで一時停止状態で待機します。

※ テープB面のプログラムも全て録音し終わるとCDプレーヤーは停止状態となり、テープはテープエンドまで録音を続けます。(無音のまま)

ご注意

- テープ両面の録音時間は最大99分までセットできます。
- 24曲以上のディスクでは23曲以内のランダムプログラムとなります。
- テープのA面に1曲もはまらない場合は、次のように表示されますのでテープ両面の録音時間をセットしなおしてください。



- CDテーププログラムのA面中にテープが反転した場合は、CDはそのままプログラムA面が終るまで演奏し続け、終了後、一時停止状態となります。
必ずテープの長さに合わせて、CDテーププログラムを行なってください。

■レコードの録音

〔ダイレクト録音〕

- ①34ページの「録音の準備」を行ないます。
- ②レコードプレーヤーP-M555(別売)にレコード盤をセットし、演奏をスタートできる状態にします。
- ③カセットデッキ部のDIRECT RECORDINGキーのPHONOキーを押します。レコードプレーヤーの演奏がスタートし、数秒後にデッキの録音がスタートします。このときアンプ部のインプットセレクターは自動的にPHONOに切り替わっています。
※ダイレクト録音は、インプットセレクターやREC OUTセレクターの位置に関係なく行なうことができますので、録音中に他のソースを自由に聴くことができます。
- ④録音を止めるときは、DECK BのSTOPキーを押し、レコードプレーヤーのPLAY/CUTキーを押します。

ご注意

レコード針がレコード盤に降りるまでの間、およびアームレストまで戻る間は、レコードプレーヤーのPLAY/STOPキーおよびアンプ部のPHONOキーは受けつけません。

〔手動録音〕

- ①34ページの「録音の準備」を行ないます。
- ②レコードプレーヤー(別売)にレコード盤をセットします。レコードプレーヤーにP-M555を使うときは、レコードプレーヤーのCUEスイッチをUP側にセットします。
- ③アンプのREC OUTセレクターを“SOURCE”にします。(21ページ「REC OUTセレクターについて」参照。)
- ④アンプ部のPHONOキーを押します。
P-M555をご使用になっている場合、レコードが回り始めレコードの上までトーンアームが移動します。
- ⑤カセットデッキ部のREC/PAUSEキーを押します。RECインジケーターが点灯し録音スタンバイ状態となります。
- ⑥レコードプレーヤーのCUEスイッチをDOWN側にセットし、曲の始まりにタイミングを合わせてカセットデッキ部の▷キーまたは◁キーを押して録音をスタートします。
- ⑦録音を止めるときは、DECK BのSTOPキーを押し、レコードプレーヤーのPLAY/CUTキーを押します。

■その他の機器の録音 (21ページ「REC OUTセレクターについて」参照。)

本システム以外の機器の再生音を録音するときは、手動録音となります。

ビデオディスクの録音

- ①34ページの「録音の準備」を行ないます。
- ②ビデオディスクプレーヤーにビデオディスクをセットします。
- ③アンプ部のVDPキーを押します。
- ④アンプ部のREC OUTセレクターを“SOURCE”にします。
- ⑤カセットデッキ部のREC/PAUSEキーを押します。RECインジケーターが点灯し録音スタンバイ状態となります。
- ⑥ビデオディスクの再生とタイミングを合わせて、DECK Bの▷キーまたは◁キーを押して録音をスタートします。
- ⑦録音を止めるときはDECK BのSTOPキーを押し、ビデオディスクプレーヤーを操作してディスクの再生を止めます。

ビデオテープの録音

- ①34ページの「録音の準備」を行ないます。
- ②ビデオデッキにテープをセットします。(詳しくはビデオデッキの取扱説明書をご覧ください。)
- ③アンプ部のVCRキーを押します。
- ④アンプ部のREC OUTセレクターを“VCR”または“SOURCE”にします。
- ⑤カセットデッキ部のREC/PAUSEキーを押します。RECインジケーターが点灯し録音スタンバイ状態となります。
- ⑥ビデオテープの再生タイミングを合わせて、カセットデッキ部の▷キーまたは◁キーを押して録音をスタートします。
- ⑦録音を止めるときはDECK BのSTOPキーを押し、ビデオデッキを操作して再生を止めます。

■外部機器による録音 (21ページ「REC OUTセレクターについて」参照。)

カセットアンプ部のVCR端子にビデオデッキ(別売)を接続すれば、本システムで再生した音を録音できます。

- ①ビデオデッキの取扱説明書を参照してビデオデッキを録音一時停止状態にします。
- ②アンプ部のREC OUTセレクターで録音したいソースを選択します。ただしレコードを録音したいときは、REC OUTセレクターを“SOURCE”にセットし、アンプ部のPHONOキーを押します。ビデオディスクを録音したいときはREC OUTセレクターを“SOURCE”にセットし、アンプ部のVDPキーを押します。
- ③ソースの再生とタイミングを合わせてビデオテープの録音を始めてください。
- ④録音が終わったらソースの再生または演奏を止めます。

録音に便利な機能

■オートレックミュート

エアチェックのときなどCMやナレーションをタイミングよくカットしたり、曲と曲の間に適当なスペース(4秒間)をワンタッチで作る機能です。

4秒間のスペースをつくるには

録音中にカセットデッキ部のREC MUTEキーを押します。4秒間のスペースをつくって自動的に録音一時停止状態になります。

4秒以上のスペースをつくるには

REC MUTEキーを必要な時間だけ押し続けてください。キーを離してから4秒間スペースをつくった後、自動的に録音一時停止状態になります。

オートレックミュート動作中に録音をスタートしたいときは

カセットデッキ部のPLAYキーを押してください。オートレックミュート動作を解除して録音を始めます。

※テープダビング中にオートレックミュートは、はたらきません。

■レックリターン

録音中にテープを巻き戻すと、録音開始位置まで戻る機能です。録音を最初からやりなおしたいときや録音後すぐに再生したいときなどに便利です。

▷方向に録音中はカセットデッキ部の◀キーを押し、◀方向に録音中はカセットデッキ部の▶キーを押します。

※レックリターン機能は4秒以上録音している場合に、はたらきます。

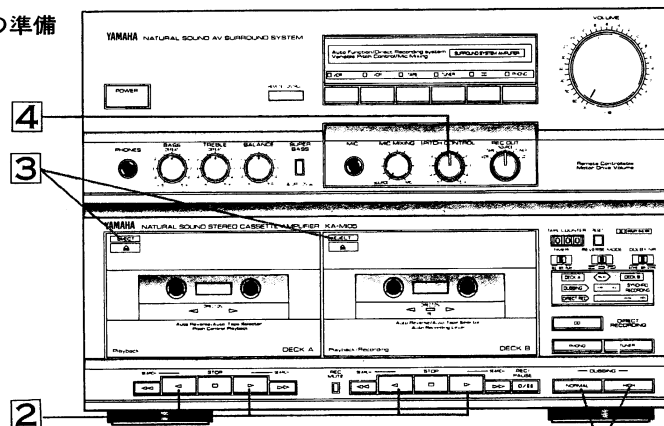
※テープダビング中にレックリターンは、はたらきません。



テープダビング

DECK AからDECK Bへワンタッチでテープダビング(テープコピー)できます。倍速ダビングをご使用になれば、半分の時間でダビングできます。

- ①32ページの「テープ再生の準備」を行ないます。
- ②テープの走行方向を決めます。DECK A、DECK Bをそれぞれセットしてください。
- ③DECK Aに再生するテープ、DECK Bに録音するテープを装着します。
- ④PITCH CONTROLつまみセンターの位置にセットします。
- ⑤NORMALキーまたはHIGHキーを押してダビングを始めます。標準速ダビングを行なうときはNORMALキー、倍速ダビングを行なうときはHIGHキーを押します。

①再生の準備



両面ダビングを行なうときはリバースモードを  か  にしておき▷方向からスタートしてください。

—ダビング時の動作について—

- ダビング時はDOLBY NRスイッチに関係なくDECK Aのテープ録音方式がそのまま録音されます。(スピーカーから出る音はDOLBY NRスイッチの位置によります。)

DECK A		DECK B
ドルビー-OFF	→	ドルビー-OFF
ドルビー-B	→	ドルビー-B
ドルビー-C	→	ドルビー-C

- 倍速ダビング中スピーカーからは倍速の再生音が出ます。
- ダビングが終わるとDECK A、DECK Bともに停止します。
- DECK A(再生側テープ)が先に終わると、DECK Bは約4秒間の無録音部分を作って停止します。
- DECK B(録音側テープ)が先に終わるとDECK A、DECK Bともに停止します。
- ダビングを途中で止めるときは、STOPキーを押します。このとき、DECK AのSTOPキーを押すと、DECK Aは停止し、DECK Bは約4秒間の無録音部分を作ってから停止します。DECK BのSTOPキーを押すとDECK A、DECK Bは同時に停止します。

その他の機器の操作

■レコードの演奏

1. 本システムおよびレコードプレーヤー（別売）の電源を入れます。
2. レコードプレーヤー（別売）の取扱説明書を参照してレコード盤をセットします。
3. アンプ部のPHONOキーを押します。P-M555の場合レコードの演奏が自動的にスタートします。その他のレコードプレーヤーを使用される場合は、レコードプレーヤーの取扱説明書に従ってレコード演奏を始めます。
4. 音量・音質を調節します。20ページ「音量・音質の調節」参照。

■ビデオディスクの再生

1. 本システムおよびビデオディスクプレーヤー（別売）の電源を入れます。
2. アンプ部のVDPキーを押します。
3. ビデオディスクプレーヤー（別売）の取扱説明書を参照してビデオディスクの再生をスタートします。
4. 音量・音質を調節します。20ページ「音量・音質の調節」参照。

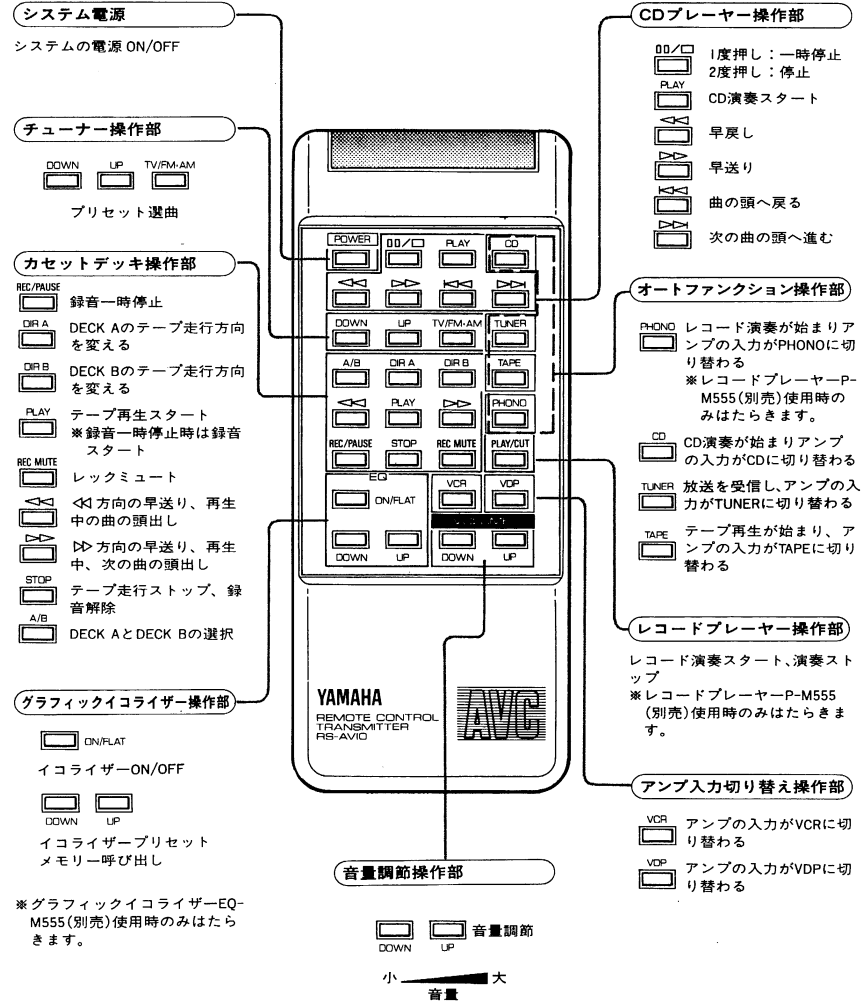
■ビデオテープの再生

1. 本システムおよびビデオデッキ（別売）の電源を入れます。
2. アンプ部のVCRキーを押します。
3. ビデオデッキ（別売）の取扱説明書を参照してビデオテープの再生をスタートします。
4. 音量・音質を調節します。20ページ「音量・音質の調節」参照。

ご注意

VCRとVDPの映像が入力されているときに、インプットセクターを「TAPE」、「TUNER」、「CD」、「PHONO」に変えると、MONITOR OUTは、VCRが優先して出力されます。

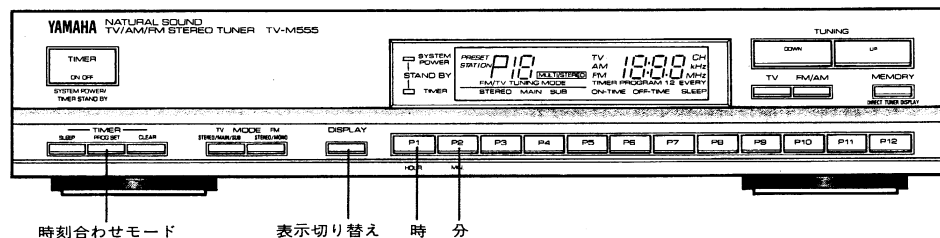
リモコンの操作



※グラフィックイコライザー-EQ-M555（別売）使用時のみはたらかします。

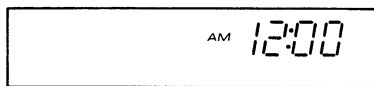
時刻の合わせかた

タイマーを機能させるために、始めに現在時刻を合わせます。

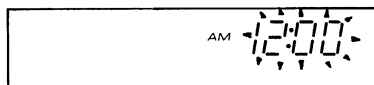


①電源を入れます。20ページ「電源のON/OFFについて」参照。

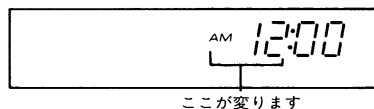
②チューナー部のDISPLAYキーを押し、ディスプレイを時計モードにします。



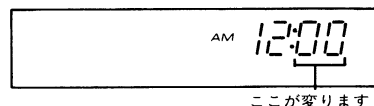
③PROG SETキーを押し時刻合わせのモードにします。ディスプレイの時間表示が点滅します。



④P1(HOUR)キーを押し、「時」を合わせます。キーを1回押すごとに1時間ずつ進みます。(キーを押し続けても変化しません。)



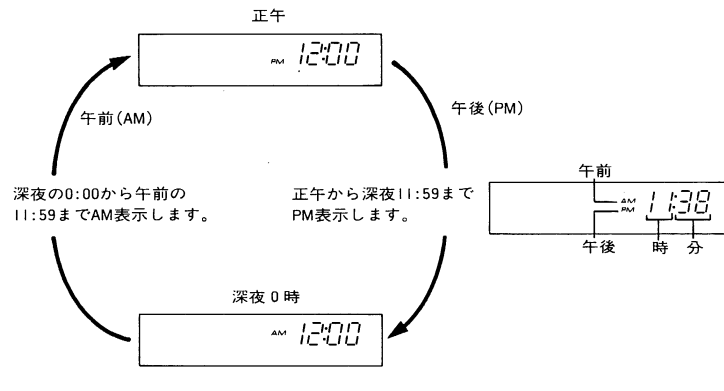
⑤P2(MIN.)キーを押し、「分」を合わせます。キーを1回押すごとに1分ずつ進みます。(キーを押し続けても変化しません。)



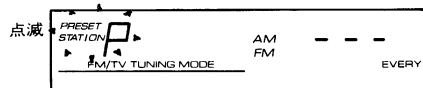
⑥時報に合わせてPROG SETキーを押します。ディスプレイの時間表示が点滅から点灯に変わり、時計が00秒からスタートします。

ご注意

- 停電した場合、ディスプレイは「AM 12:00」を点滅します。そのようなときには再度時刻合わせを行なってください。
- 時刻合わせの途中でDISPLAYキーを押したり、電源を切ると、それまで表示されていた時刻がセットされますのでご注意ください。
- 万一、時間の進みかたが正しくない場合は、電源プラグをコンセントから抜いて10秒以上待ってから再び差し込み、時刻を合わせてください。
- 時計表示は12時間表示です。

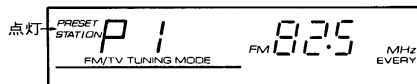


⑥ DISPLAY キーを 1 回押し、EVERY タイマーの放送受信モードにします。



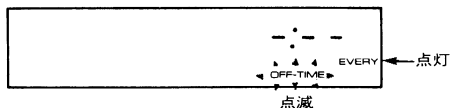
⑦ プリセットナンバーキーの P1 を押します。

- テレビ放送を受信する場合は TV キーを押してからプリセットナンバーキーを押します。
- 放送局を受信しないと、ラストチャンネルが自動的にセットされます。



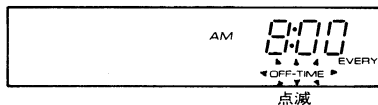
⑧ DISPLAY キーを押し EVERY プログラム OFF-TIME (OFF になる時刻) セットモードにします。

EVERY インジケーターが点灯し、OFF-TIME インジケーターが点滅します。この状態で OFF-TIME がセットできます。



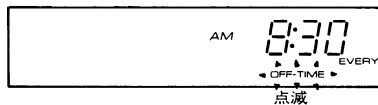
⑨ OFF-TIME の“時”を合わせます。

プリセットナンバーキーの P1 (HOUR) を“8”と表示されるまで押します。



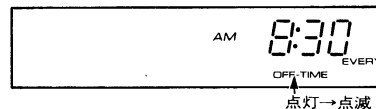
⑩ OFF-TIME の“分”を合わせます。

プリセットナンバーキーの P2 (MIN.) を“30”と表示されるまで押します。



⑪ PROG SET キーを押し、OFF-TIME をセットします。

OFF-TIME インジケーターが点滅から点灯に変わります。



⑫ この状態で TIMER キーを押し電源を切るとセットされた時刻にタイマーがはたらき、チューナーの目覚まし再生がスタートします。

※ アンプ部の POWER キーで電源を切るとタイマーがはたらきません。必ずチューナー部の TIMER キーで電源を切ってください。

※ チューナーモードに戻るときは、DISPLAY キーまたは MEMORY (DIRECT TUNER DISPLAY) キーを押してください。

■ カセットテープまたは CD による目覚まし再生

例. AM7:30 にカセットテープ [CD] を再生し、AM8:30 に電源が切れるプログラムを PROGRAM1 のプログラムタイマーにセットする場合。

● アンプ部の操作

TAPE (CD) キーを押します。

● カセットデッキ部の操作 [CD 演奏のときはこの操作をしないでください。]

① TIMER スイッチを“PLAY”の位置にセットします。

② 走行方向を決め、カセットテープをセットし、REVERSE MODE セレクターと DOLBY NR スイッチをセットします。(32 ページ「テープ再生の準備」参照。)

※ カセットテープを DECK A、DECK B 両方にセットした場合、電源が ON になったとき DECK A の再生からスタートします。

● CD プレーヤー部の操作 [カセットテープ再生のときはこの操作をしないでください。]

演奏停止状態で PAUSE/STOP キーを押しながら PLAY キーを押します。ディスプレイの“TIMER PLAY SET”が点灯しタイマー ON で CD 演奏が始まることを表示します。また CD プレーヤー部でプログラム演奏をセットしておけば、プログラム演奏をタイマー演奏できます。

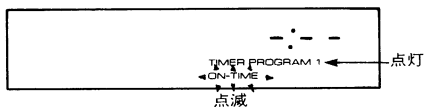
●チューナー部の操作

①現在時刻が合っているか確認します。

時刻がセットされていないとプログラムタイマーは使えません。

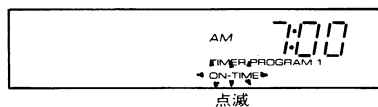
②DISPLAYキーを数回押しTIMER PROGRAM1のON-TIME(ONになる時刻)セットモードにします。

TIMER PROGRAM1インジケータが点灯し、ON-TIMEインジケータが点滅します。この状態でON-TIMEがセットできます。



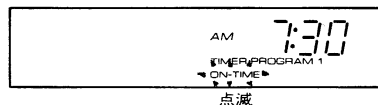
③ON-TIMEの“時”を合わせます。

プリセットナンバーキーのP1(HOUR)を“AM7”と表示されるまで押します。



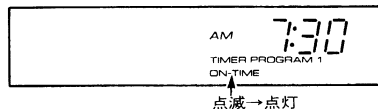
④ON-TIMEの“分”を合わせます。

プリセットナンバーキーのP2(MIN.)を“30”と表示されるまで押します。



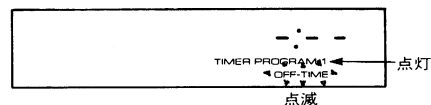
⑤PROG SETキーを押し、ON-TIMEをセットします。

ON-TIMEインジケータが点滅から点灯に変わります。



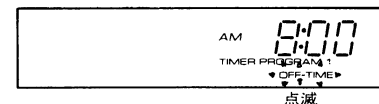
⑥DISPLAYキーを2回押し、TIMER PROGRAM1のOFF-TIME(OFFになる時刻)セットモードにします。

TIMER PROGRAM1インジケータが点灯し、OFF-TIMEインジケータが点滅します。この状態でOFF-TIMEがセットできます。



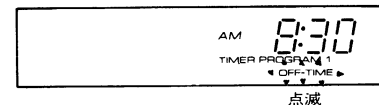
⑦OFF-TIMEの“時”を合わせます。

プリセットナンバーキーのP1(HOUR)を“8”と表示されるまで押します。



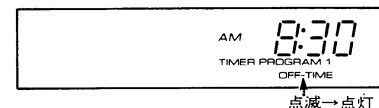
⑧OFF-TIMEの“分”を合わせます。

プリセットナンバーキーのP2(MIN.)を“30”と表示されるまで押します。



⑨PROG SETキーを押し、OFF-TIMEをセットします。

OFF-TIMEインジケータが点滅から点灯に変わります。



⑩この状態でTIMERキーを押して電源を切るとセットされた時刻にタイマーがはたらかき、カセットテープまたはCDの目覚まし再生がスタートします。

※アンプ部のPOWERキーで電源を切るとタイマーがはたらかきません。必ずチューナー部のTIMERキーで電源を切ってください。

※チューナーモードに戻るときは、DISPLAYキーまたはMEMORY(DIRECT TUNER DISPLAY)キーを押してください。

留守録音(チューナー→カセットデッキ)

例. PM3:30~PM4:30のFM放送をPROGRAM2のプログラムタイマーで留守録音する場合

●アンプ部の操作

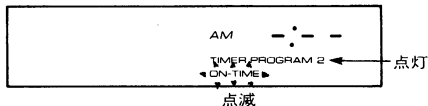
- ①TUNERキーを押します。
- ②REC OUTセレクターを“SOURCE”または“TUNER”にします。

●カセットデッキ部の操作

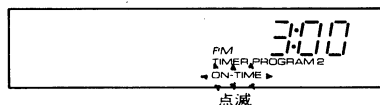
- ①TIMERスイッチを“REC”の位置にセットします。
- ②走行方向を決め、カセットテープをDECK Bにセットし、REVERSE MODEセレクターとDOLBYNRスイッチをセットします。(34ページ「録音の準備」参照。)

●チューナー部の操作

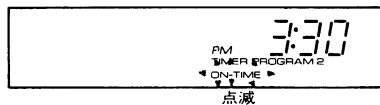
- ①現在時刻が合っているか確認します。
時刻がセットされていないとプログラムタイマーは使えません。
- ②DISPLAYキーを数回押しTIMER PROGRAM2のON-TIME(ONになる時刻)セットモードにします。
TIMER PROGRAM2インジケーターが点灯し、ON-TIMEインジケーターが点滅します。この状態でON-TIMEがセットできます。



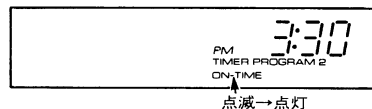
- ③ON-TIMEの“時”を合わせます。
プリセットナンバーキーのP1(HOUR)を“PM3”と表示されるまで押します。



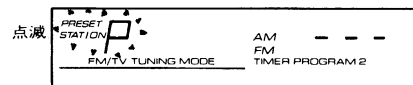
- ④ON-TIMEの“分”を合わせます。
プリセットナンバーキーのP2(MIN.)を“30”と表示されるまで押します。



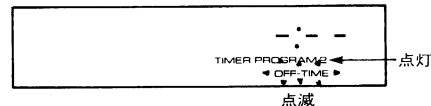
- ⑤PROG SETキーを押し、ON-TIMEをセットします。
ON-TIMEインジケーターが点滅から点灯に変わります。



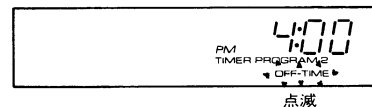
- ⑥DISPLAYキーを1回押し、PROGRAM2タイマーの放送受信モードにします。



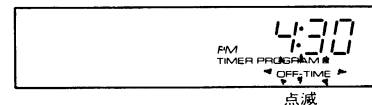
- ⑦プリセットナンバーキーで予約したい番組の放送局を受信します。
- ⑧DISPLAYキーを1回押し、TIMER PROGRAM2のOFF-TIME(OFFになる時刻)セットモードにします。
TIMER PROGRAM2インジケーターが点灯し、OFF-TIMEインジケーターが点滅します。この状態でOFF-TIMEがセットできます。



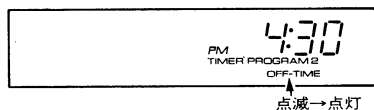
- ⑨OFF-TIMEの“時”を合わせます。
プリセットナンバーキーのP1(HOUR)を“PM4”と表示されるまで押します。



- ⑩OFF-TIMEの“分”を合わせます。
プリセットナンバーキーのP2(MIN.)を“30”と表示されるまで押します。



- ⑪PROG SETキーを押し、OFF-TIMEをセットします。
OFF-TIMEインジケーターが点滅から点灯に変わります。



- ⑫この状態でTIMERキーを押して電源を切るとセットされた時刻にタイマーがはたらき、留守録音がスタートします。

※アンプ部のPOWERキーで電源を切るとタイマーがはたらきません。必ずチューナー部のTIMERキーで電源を切ってください。

※チューナーモードに戻るときは、DISPLAYキーまたはMEMORY (DIRECT TUNER DISPLAY) キーを押してください。

■プログラムのチェック

DISPLAYキーを押すごとにディスプレイはチューナーモード→時計モード→PROGRAM1プログラムタイマー→PROGRAM2プログラムタイマー→EVERYプログラムタイマー→チューナーモード……の順で表示されますので、簡単にチェックできます。

■プログラムの削除・変更

CLEARキーを使ってプログラムの変更・削除ができます。

- ①DISPLAYキーを押して、プログラムの変更したい項目(ON-TIMEモード、放送受信モード、OFF-TIMEモード)をディスプレイに表示します。
②CLEARキーを押します。
ディスプレイ表示は“-:--”に変わりますので、改めてセットしなおします。

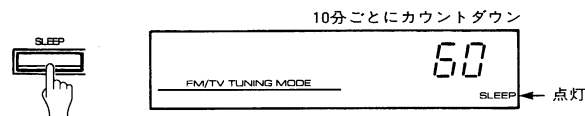
スリープタイマー

SLEEPキーを押すと、スリープタイマーが60にセットされ、60分後に電源は自動的にOFFになります。SLEEPキーは押すたびに、50→40→30→20→10→0と短くなり、セット時間0にすると電源が切れます。

- ①チューナーモード(受信周波数/チャンネル表示)から操作します。チューナーモード以外の表示のときは、DISPLAYキーまたはMEMORY(DIRECT TUNER DISPLAY)キーを押してディスプレイをチューナーモードにします。

- ②TIMER SLEEPキーを押します。

ディスプレイに“60”とSLEEPインジケーターが点灯し、スリープタイマーがスタートします。



※スリープタイマーは一度電源がOFFになると解除されます。

※スリープタイマーの時間表示は他のモードにすると一時的に消えますが、再度SLEEPキーを押すと、残りの時間を表示します。その後は押すごとに10分ずつ短縮されます。

※スリープタイマーのOFF時刻とプログラムタイマーのON時刻が重複すると、スリープタイマーが優先され、電源はOFFになります。

※ディスプレイがチューナーモード以外のときはスリープタイマーのセットはできません。

■スリープタイマーの解除

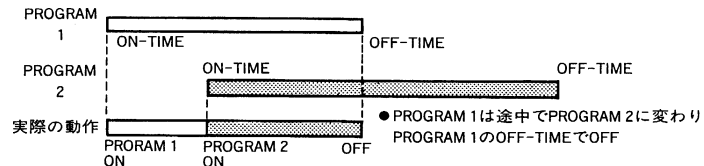
電源スイッチをOFF、またはSLEEPキーを押しつづけセット時間を0にします。

タイマーセット上の注意

■タイマーセットした時間が重複した場合

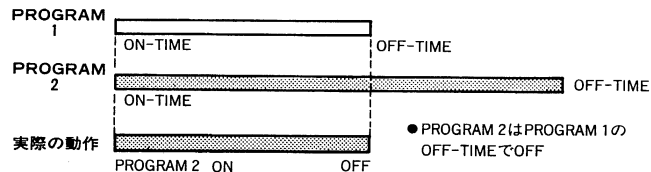
- ON-TIMEになるたびにプログラムが切り替わり、OFF-TIMEになると電源が切れます。

(例)

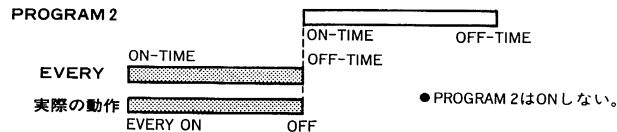


- ON-TIMEとOFF-TIMEが同一時間の場合はOFFになります。
- PROGRAM1、PROGRAM2、EVERYで同一時間をセットした場合、OFF-TIMEはEVERY、PROGRAM2、PROGRAM1の優先順位となります。

(例)



(例)



- 下記の例のようにプログラムする放送が連続している場合にはPROGRAM1、PROGRAM2、EVERYの順にセットしてください。優先順位との関係で支障なくはたります。

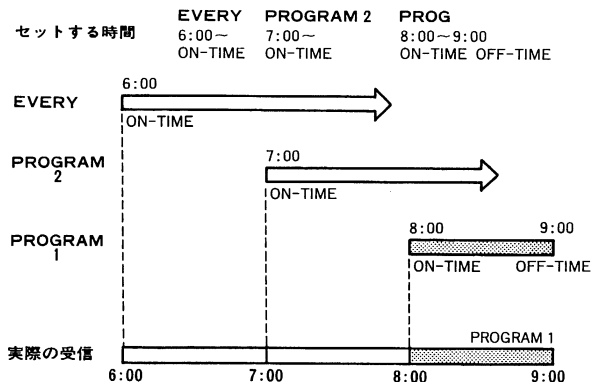
(例)

	PROG 1	PROG 2	EVERY
放送時間	8:00~9:00	9:00~10:00	10:00~11:00

- EVERY、PROGRAM2、PROGRAM1の順で放送時間が早い場合、民間放送の場合にはステーションブレイクと呼ばれる1分間程度のCM時間をカットする下記のようなセットにすれば、プログラムが可能です。

	PROG 1	PROG 2	EVERY
放送時間	8:00~	7:00~8:00	6:00~7:00
セットする時間	8:00~	7:00~7:59	6:00~6:59

- またはOFF-TIMEをセットせずにON-TIMEのみをセットすれば同様にはたります。ただし、PROGRAM1またはPROGRAM2のどちらか片方にOFF-TIMEをセットしてください。



- 操作中にON-TIMEになった場合

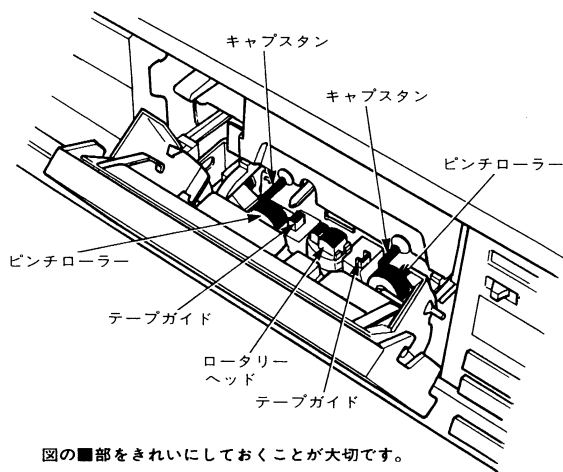
プログラム中にON-TIMEになると、チューナーモードになります。TUNINGキーで選曲中にON-TIMEになると、プログラムされていた局が選局されます。

カセットデッキ部のお手入れ

カセットデッキを長時間ご使用になつていきますと、キャプスタン、ピンチローラー及びヘッドの汚れや帯磁が原因で、音がかすれたり、ノイズが入ったり、音がふるえたりしてきます。市販の綿棒、クリーニング液やクリーニングテープ、ヘッドイレーサーをご使用になり、定期的にクリーニングや消磁をしてください。

クリーニングはおよそ10時間ごとに、消磁は20~30時間を目安に行なってください。また特に大切な録音をするときや、古いテープを使った後もクリーニングしておきましょう。

- ヘッドのクリーニングの際は、ヘッドに無理な力を加えないようにご注意ください。また、消磁の際は、ヘッドイレーサーの説明書を充分参照してください。



ドルビーNRについて

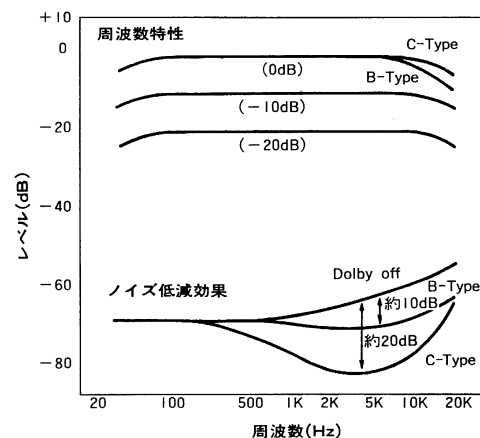
カセットテープの場合、聴感上、高域でのテープのヒスノイズが主な雑音源になります。このヒスノイズを減らすため、本機では、従来のドルビーB NRに加え、ドルビーC NRを採用し、ドルビーB NRとドルビーC NRを切り換えて使用することができます。

ドルビーB NRでは、高域周波数において約10dBの改善効果がありますが、ドルビーC NRでは、人間の耳が最も敏感な帯域(2kHz~8kHz)で約20dBの改善効果が得られ、更に、10kHz以上の帯域では、テープの高域MOL(最大録音レベル)特性を改善することができます。

下図は、ドルビーB NRとドルビーC NRで録音・再生したときの周波数特性とノイズ低減効果を表したものです。

ドルビーC NRの場合、ドルビーB NRに比べノイズはさらに低減され、約20dBの改善効果があることがわかります。

なお、ドルビーNRシステムは、録音・再生両過程を通じてノイズを低減しますので、再生時にはDOLBY NRスイッチは必ず録音時と同じ状態にしてください。



DOLBY B-C NR

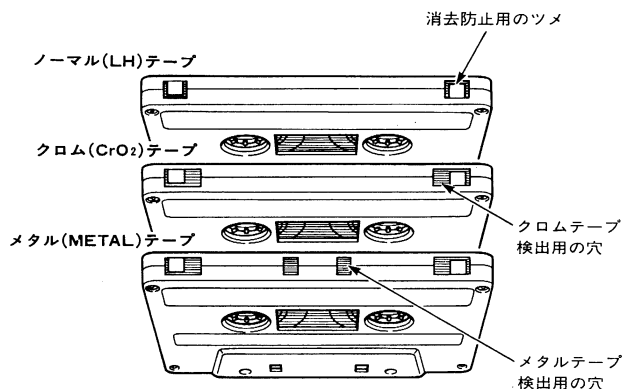
ドルビーノイズリダクションはドルビーラボラトリーズライセンシングコーポレーションからの実施権に基づき製造されています。

「ドルビー」及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズライセンシングコーポレーションの登録商標です。

オートテープセレクトターについて

■カセットテープの材質による種類とカセットハーフの構造

カセットテープは磁性材質によって特性が異なります。そこで、そのテープに合ったバイアス量とイコライザー特性を選択する必要があります。本機はオートテープセレクトター機能を内蔵していますので、カセットテープを装着するだけでそのテープに最適なバイアス電流とイコライザー特性が自動的に切り換わり、それぞれのテープの性能を発揮させることができます。テープの種類を検出には図のような検出用の穴を利用してします。



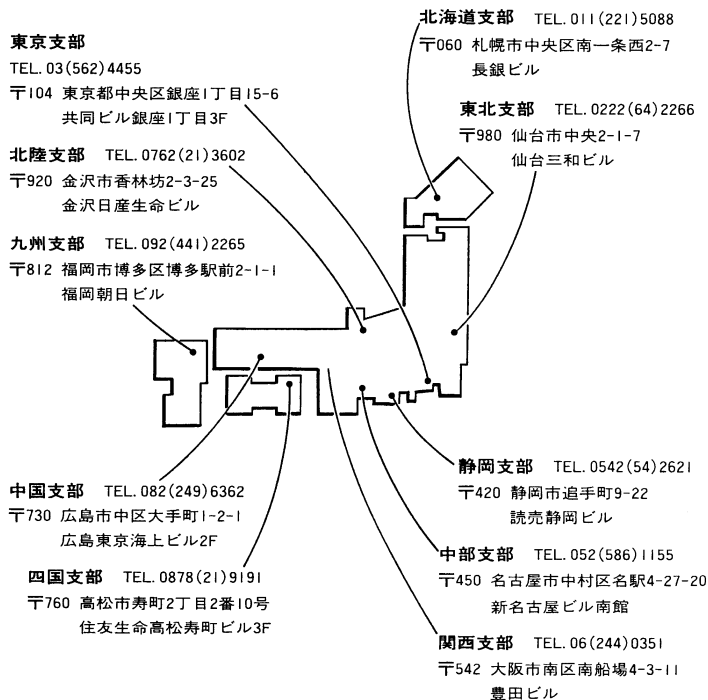
※カセットハーフに検出用の穴がない（旧タイプのメタルテープなど）テープではオートテープセレクトターは動きません。

※旧タイプのメタルテープ（検出穴のないもの）を使用しますと、CrO₂ポジションで録音・再生されます。テープによっては消去されない（前の音が消え残る）場合や音が歪む場合があります。

著作権について

あなたが、本機で録音したものは、個人として楽しむほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。

■日本音楽著作権協会



参考

故障かなと思ったら

本システムをご使用中に正常に動作しなくなったときは、下記の事項をご確認ください。そのうえで正常に動作しない、あるいは下記以外で何か異常が認められた場合は、本システムの電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げ店または最寄りのYAMAHA電機機器製品サービス拠点宛、お問い合わせ、サービスをご依頼ください。

本システムはカセットアンブ部、チューナー部、CDプレーヤー部の単体では動作致しませんので“カセットアンブ部+チューナー部”または“カセットアンブ部+チューナー部+CDプレーヤー部”の組み合わせで修理をご依頼ください。

チューナー部のTIMERキーを押しても電源が入らない。	最後にアンブ部のPOWERキーを押して電源を切った。チューナー部のSYSTEM POWER/TIMER STAND BYインジケーターが赤色に点灯しています。	アンブ部のPOWERキーを押して電源を入れてください。
	チューナー部がリセットされていない。	チューナー部の底板についているリセットボタンを押してください。
チューナー部の表示がおかしい。	チューナー部がリセットされていない。	チューナー部の底板についているリセットボタンを押してください。
FM放送やテレビ音声に“バリバリ”という音が入る。 (電波の弱い地域ほど著しい)	自動車などのイグニッションノイズ。	FM/TV専用アンテナをできるだけ高く道路から離れた位置に設置し、同軸ケーブルを使用してください。
	サーモスタットつき電機器具の雑音。	
ステレオ放送、音声多重放送になると雑音が多くなる。	放送局から離れた地域や障害物があるアンテナ入力弱い。	アンテナの接続を確認してください。
		FM/TV専用アンテナ(できれば多素子のもの)を設置してください。
ステレオ放送、音声多重放送受信 MULTI/STEREO インジケーターが点滅し、雑音も多い。	アンテナ入力の不足。	受信地域の電解強度に合ったアンテナを設置してください。
プリセット選局ができない。	プリセット(メモリー)が消えている。	再度プリセットしてください。
テレビ画面に縞模様や色ムラが出る。	本システムのテレビ音声とテレビ画面が別々のチャンネルを受信している。	本システムのテレビ音声とテレビのチャンネルを同じにしてください。
AM放送に“ジー”“ザー”“ガリガリ”などの連続雑音が出る。	雷などによる雑音、または蛍光灯、モーター、サーモスタット付きの電機器具による雑音。	AM屋外アンテナを張りアースをとると減少しますが、完全に除去するのは困難です。
	テレビ等(マイコン、CDプレーヤー)をそばで使用している。	テレビ等(マイコン、CDプレーヤー)から離して使用してください。
AM放送の感度が低い。	電波が弱いか、アンテナの接続が確実でない。	AMループアンテナを確実に接続してください。
		AMループアンテナの方向を変えてみてください。
		屋外にAM専用アンテナを張ってください。
タイマーをセットできない。	時刻合わせが行われていない。	時刻合わせを行ってください。
タイマー動作が予定どおりに行なわれない。	複数のプログラムの間で、ON-TIME、OFF-TIMEが同一時間にセットされている。	タイマー時間を、同一時間に重複しないようにセットしなおしてください。
	時間はセットしたがSETキーを押していなかった。	タイマー予約を再度やりなおしてください。
	最後にアンブ部のPOWERキーで電源を切った。	タイマーセット後はチューナー部のTIMERキーで電源を切ってください。
		チューナー部のTIMERキーを押して電源を入れてください。
アンブ部のPOWERキーを押しても電源が入らない。	最後にチューナー部のTIMERキーを押して電源を切った。	チューナー部のTIMERキーを押して電源を入れてください。
	チューナーコネクタの接続が不完全。	チューナーコネクタを正しく接続しなおしてください。
フロントスピーカーの片方が鳴らない。	アンブ部のBALANCEツマミがLかRのどちらかにずれている。	BALANCEツマミを正しく調節しなおしてください。
	スピーカーコードの接続が不完全。	スピーカーコードを正しく接続しなおしてください。

フロントスピーカーから音が出ない。	アンプ部のMIC MIXINGツマミがMIC側にセットされている。	MIC MIXINGツマミを左(SOURCE側)に回してください。
	アンプ部のVOLUMEツマミが左一杯に絞られている。	VOLUMEツマミを回して音量を調節してください。
	コード類の接続が確実に行なわれていない。	コード類を正しく接続しなおしてください。
リアスピーカーから音が出ない。	入力ソースがモノラル。	モノラルソースはサラウンド再生できません。
	コード類の接続が確実に行なわれていない。	コード類を正しく接続しなおしてください。
低音のない不自然な再生音で音像が安定しない。	アンプ部とスピーカーの位相(+,-)が合っていない。	アンプ部とスピーカーの位相(+,-)を合わせて接続してください。
レコード再生時、「ワーン」という音が出る。	レコードプレーヤーとスピーカーの設置場所が近すぎてハウリングを起こしている。	レコードプレーヤーとスピーカーを離して設置してください。また、部屋のコーナーにレコードプレーヤーを置くとハウリングが起きやすいので避けてください。
ディスクを入れても演奏できない。	ディスクを裏返しにセットされている。	ディスクのレーベル面を上にしてセットしてください。
	ディスクがひどく汚れている。	ディスクをクリーニングしてください。
音が出ない。	アンプ部のインプットセレクターが正しくセットされていない。	インプットセレクターのCDキーを押してください。
音ごと切れる。(同じ場所だと切れる。)	ディスクが汚れている。	ディスクをクリーニングしてください。
ノイズが入る。	CDコネクタの接続が不完全。	CDコネクタを正しく接続しなおしてください。
録音・再生時にテープが回らない。	テープがたるんでいたため、ピンチローラーにまきついている。	テープを使用するまえにテープのたるみを鉛筆などで取ってください。
録音できない。	カセットテープのツメが折られている。	カセットテープを交換するか、ツメの部分をセロハンテープなどでカバーしてください。
	ヘッドが汚れている。	ヘッドをクリーニングしてください。
音がかすれる。音ごと切れる。	ヘッドが汚れている。	ヘッドをクリーニングしてください。
	ヘッドが帯磁している。	ヘッドイレーサーでヘッドを消磁してください。
	古いテープを使っている。	良質なテープと交換してください。
再生音の音質が悪い。	ノイズリダクションのセットが違っている。	録音したときと同じノイズリダクションを選んでください。
左右のバランスが悪い。	ヘッドが汚れている。	ヘッドをクリーニングしてください。
雑音が多い。	ヘッドが汚れている。	ヘッドをクリーニングしてください。
	ヘッドが帯磁している。	ヘッドイレーサーでヘッドを消磁してください。
	古いテープを使用している。	良質なテープと交換してください。
録音または再生の途中でストップしてしまう。	テープがゆるんだり飛び出している。	鉛筆などでカセットハーフのリール軸を回して、テープを張りなおしてください。
	テープに折れや傷がある。	新品テープと交換してください。
	エンドレステープを再生している。	エンドレステープは再生しないでください。
選曲できない。	無録音部分が短い。	頭出し機能は、無録音部分が4秒以上ないとはたきません。
	曲の途中で録音レベルが非常に短いところがある。	
	エアチェックなどで会話が録音されている。	
リモコンで操作できない。	電池が消耗している。	電池を交換してください。
	リモコン操作の距離、角度が適切でない。	7m以内、30°以内で操作してください。
リモコンを操作するとテレビが誤動作する。	ワイヤレスリモコン付のテレビのそばで使用している。	テレビと本システムを離してセットするかテレビのリモコン受光部においてください。

参考仕様

KA-M105

■アンプ部

実用最大出力	43W × 2 (EIAJ/6 Ω)
全高調波歪率	0.006% (1 kHz、25W/6 Ω 出力時)
トーンコントロール	BASS (50Hz) ±12dB TREBLE (20kHz) ±12dB SUPER BASS (90Hz) +9dB
周波数特性	5Hz~20kHz ±0.5dB
S/N比	PHONO 74dB CD/VDP 90dB

■デッキ部

トラック方式	4トラック、2チャンネルステレオ
形式	録再リバーズ (DECK B) 再生リバーズ (DECK A)
ヘッド	DECK A パーマロイ再生ヘッド×1 DECK B パーマロイ録音・再生ヘッド×1 フェライト消去ヘッド×1
ワウ・フラッター	0.08% (WRMS)
周波数特性	メタル 35Hz~16kHz ±3dB クロム 35Hz~15kHz ±3dB ノーマル 35Hz~14kHz ±3dB
S/N比	ドルビー NR B ON 65dB ドルビー NR C ON 72dB ドルビー NR OFF 55dB

■総合

電源	AC100V 50/60Hz
消費電力	95W (電気用品取締法に基づく)
最大外形寸法	340(幅) × 234.5(高さ) × 310(奥行)mm
重量	7.9kg

TV-M555

■TVチューナー部

受信チャンネル	VHF 1~12CH UHF 13~62CH
実用感度	10μV/75 Ω
S/N比	60dB (MONO)
ステレオセパレーション	35dB

■FMチューナー部

受信周波数	76.0~90MHz
実用感度	2.0μV/75 Ω (MONO)
イメージ妨害比	35dB
IF妨害比	65dB
実効選択度	65dB
S/N比	73dB (MONO)
ステレオセパレーション	35dB

■AMチューナー部

受信周波数	531~1,611kHz
実用感度	300μV/m
S/N比	45dB

■総合

出力	FM 500mV 100%変調 AM 150mV 30%変調
最大外形寸法	340(幅) × 66.5(高さ) × 298.5(奥行)mm
重量	2.3kg

CD-M105

出力電圧	2.0V
電源	CDコネクタによりKA-M105から供給
最大外形寸法	340(幅) × 85(高さ) × 320(奥行)mm
重量	3.5kg

NS-333AV

型式	3ウェイ密閉方式 防磁型
スピーカーユニット	ウーファー JA2012 23cmコーン型 ツイーター JA0662 6cmコーン型 スーパーツイーター JA0596 1.5cmドーム型
許容入力	50W
ミュージック許容入力	100W
出力音圧レベル	89dB/W/m
再生周波数帯域	60Hz～25kHz
インピーダンス	6Ω
クロスオーバー周波数	MID 6kHz(6dB/oct.) HIGH 10kHz(6dB/oct.)
最大外形寸法	270(幅)×480(高さ)×215(奥行)mm
重量	4.5kg(1台)×2

付属品

- リモコン(RS-AV10)×1
- 単3乾電池(SUM-3)×2
- ピンコード×1
- CDコネクタ(10ピン)×1
- チューナーコネクタ(13ピン)×1
- AMループアンテナ×1
- FM/TV T字型簡易アンテナ×1

※仕様および外観は改良のため予告なく変更することがございます。



これは電子機械工業会「音のエチケット」
キャンペーンのシンボルマークです。

音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を充分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

ヤマハ ホットライン サービス ネットワーク

(昭和62年10月1日 現在)

ヤマハ ホットライン サービス ネットワークは、本機を末長く、安心してご愛用頂けるためのものです。サービスの依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

●保証期間

お買い上げ日より1年間です。

●保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

●保証期間経過後の修理

修理によって製品の機能が維持できる場合には、お客様のご要望により有料にて修理いたします。

●補修用性能部品の最低保有期間

補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後8年（テープデッキは6年）です。この期間は通商産業省の指導によるものです。

補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

●持ち込み修理のお願い

故障の場合、お買い上げ店、または最寄りのYAMAHA電気音響製品サービス拠点へお持ちください。

(右欄サービス拠点の所在地と電話番号をご参照ください。)

●製品の状態は詳しく

サービスをご依頼なさるときは、製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品名、製造番号などもあわせてお知らせください。※品名、製造番号は本機背面パネルに表示してあります。

■YAMAHA電気音響製品サービス拠点 (電気音響製品の修理受付および修理品お預かり窓口)

北海道	〒065 札幌市東区本町1条9-3 TEL(011)781-3621
仙台	〒983 仙台市卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F TEL(022)236-0249
東京	〒211 川崎市中原区木月1184 TEL(044)434-3100
新潟	〒950 新潟市万代1-4-8 シルバーボールビル2F TEL(025)243-4321
浜松	〒435 浜松市上西町911番地 ヤマハ宮竹工場内 TEL(0534)65-6711
名古屋	〒454 名古屋市中川区玉川町2-1-2 ヤマハ名古屋流通センター3F TEL(052)652-2230
大阪	〒565 吹田市新芦屋下1-16 千里丘センター内 TEL(06)877-5262
四国	〒760 高松市丸亀町8-7 ヤマハ高松店内 TEL(0878)22-3045
広島	〒731-01 広島市安佐南区西原2丁目27-39 TEL(082)874-3787
九州	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL(092)472-2134

■お客様相談窓口

北海道	〒064 札幌市中央区南10条西1-4 ヤマハセンター内 北海道営業所 TEL(011)512-6115
仙台	〒980 仙台市大町2-2-10 住友生命仙台青葉台通ビル4F 東北営業所 TEL(022)223-3101
東京	〒101 東京都千代田区神田駿河台3-4 龍名館ビル4F 首都圏営業所 TEL(03)255-5691 神田営業所 TEL(03)255-6767 北関東営業所 TEL(03)255-1825 東京営業所 TEL(03)255-2302
千葉	〒260 千葉市千葉港2-1 千葉コミュニティセンター1F 千葉営業所 TEL(0472)47-6622
神奈川	〒211 川崎市中原区木月1184 神奈川営業所 TEL(044)434-4871
浜松	〒433 浜松市幸3-5-8 ヤマハ四ツ池センター内 浜松営業所 TEL(0534)71-1207
名古屋	〒464 名古屋市中区東山通5-65 ヤマハ東山センター内 中部営業所 TEL(052)782-7551 名古屋営業所 TEL(052)782-7551
大阪	〒556 大阪市浪速区敷津東1-9-16 ヤマハなんばセンター内 関西営業所 TEL(06)647-6411 日本橋営業所 TEL(06)647-6411 大阪営業所 TEL(06)647-6411
広島	〒730 広島市中区紙屋町1-1-20 いざん広島ビル内 中四国営業所 TEL(082)244-3745
九州	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 九州営業所 TEL(092)472-2131
本社	〒430 浜松市中沢町10-1 ホームエレクトロニクス事業本部 お客様相談センター TEL(0534)60-3409

ヤマハ株式会社

〒430 浜松市中沢町10-1

ホームエレクトロニクス事業本部

国内営業部 TEL.(0534)60-3421
管理部サービス技術課 TEL.(0534)60-3405

住所および電話番号は変更になる場合があります。